問５(8)シラバス作成の評価について
（イ)作成した結果マイナスと思われる点（具体的にご教示下さい。））

・作成して１年目なので、まだ具体的な評価はできない。

・平成８年度から配布のため評価できない。

・シラバス作成が初回であり評価については現在不明である。

・平成7年度に作成したばかりで評価はまだわからない。

・Ａ４版で1授業科目1頁としたが厚さが1.7cmとなってしまい、持ち運ぶには不便となった。授業科目によっては内容が少なく空白が多いものがあり無駄であった。次回は1頁に2授業科目を載せるなどの工夫をしたい。

・授業の進行を制限する。途中の変更が困難である。単元の進行と時間割の不一致をもたらす。

・内容の記述に文字数が制限されるので説明不足となり誤解を生じないかとの心配はある。

・経費がかかること。担当教官が計画、資料集め、シラバス(指針)の編集等に時間が多くとられること。

・作成に多くの経費及び労力が必要である。

・シラバスどおりの授業をしないとどうなるかといった不安や個人評価の材料にされそうといった危惧が一部に出てきたこと、印刷費が莫大であること。

・アンケート調査中。

・従来より大部になったため取り扱いが多少不便になった程度で特にない。

・授業によっては事前に内容を確認できるわけではない。

・費用がかかるわりには学生が十分活用していないように思う。

・初年度のため学生に対する指導がいきとどかず、十分に活用できなかった面があった。

・授業方針や進度についての記述が大まか過ぎる点。

・学生の利用が学期初め(履修登録時期)に限られているきらいがある。

・従前の「学習・臨床実習の手引き」と「授業要項」を作成し、経費が多くかかった。

・作成のために経費がかかったこと。作成のために各教官が時間を必要としたこと。

・特にマイナス面はない・

・シラバスどおりには必ずしも授業が進められない場合がある。

・シラバスの内容と実際の授業内容が異なることがある。

・費用と労力。詳しく真面目にシラバスが作成された科目を学生が忌避する例が散見される。

・あまり詳しく予定を作ると学生と対話しつつ授業を組み立てていくという柔軟性に欠けてしまうという点(内容についてのマイナス点)。

・特にないが、シラバス作成経費の増大により、学類会計の負担が増大した。

・授業内容が硬直化するという一面がなくはない。

・平成７年度版は学生全員にシラバスを配布したが、２年次生以上の学生がどのような利用方法をしているか未知数である。シラバスに従うと学生にあった授業の変更しにくくなる。作成に多額の経費がかかる。

・セキュリティの問題が解決していない。授業内容の評価以外の評価に無断借用される恐れがある。

・特にないが、ページ数が増え重くなった。

・シラバスと異なる内容の講義をすることになったとき、学生の予期を裏切ることになるかも知れないこと。

・全体として各回ごとの授業内容を詳細に記載できなかったことが今後の改善点となる。

・内容を充実させ、詳述したシラバスでは頁数が拡大し持ち運びに不便を感じる。

・全課程、全学年の授業科目を一冊に取りまとめているため分厚くなってしまっている。

・特になし。ただ開講科目数が多いのでページ数が多くなり検索に時間がかかる。

・作成に係る事務量が増大した。

・事務量及び印刷費の増となった。

・作成に当たり相当の労力が必要となる。

・時代の変化に即応した授業を導入しにくい。

・特にないが事務的負担がやや増えた。

・掲載する内容の文字数を指定しなかったため各ページごとの文字のポイント数が統一できなかった。

・経費の負担区分が明確でない。事務官に多大の労力を必要としたこと。演習等において「未定」とするものが若干あったこと。

・内容を変更しようとすると、公表されたシラバスとの整合性を考える必要が生じる。

・貴重なパルプ資源が無駄に使用され、環境破壊につながっている面がある。シラバスの内容に拘束され、新たな授業展開を図れない恐れがある。

・授業を記載どおりに進めなければならない。(学生の理解度によりもう少し時間をかけたい場合がある)

・授業内容の変更がやりにくい。経費と労力が掛かりすぎる。

・学生の理解度、興味等に合わせて、あるいは授業科目名からして授業内容の自由度が高い部分、途中から授業内容を自由に変更しにくいこと。

・冊子が暑く、重いため持ち歩くことが難しい。学生が読まなくなる傾向を招きやすい怖れがある。

・教官及び事務官の業務量が増えた。

・現時点では、特にマイナス点は見当たらない。

・従来は講義要目として発行していたが、そのときには冊子の厚みは120頁程であったものがシラバスとなれば350頁にもなり持ち歩きに不便をきたす。

・毎回の授業内容が前以て知らされ、ある意味で固定化されるので時宜にかなった内容のアドリブ的変更が難しくなった。

・各学科単位等に分冊することをせず、全学科、全授業科目を一冊にまとめたため、頁数、重量が増え、携帯性に若干の難点がある。

・内容が細部にわたって記載されているため毎年の変更点などが多く作業にかなりの時間と労力を費やす。

・平成8年度以降は、各授業の内容要旨について掲載内容を充実させた「講義概要(ｼﾗﾊﾞｽ)」として発行予定であるが、平成7年度までは「授業科目履修案内」として履修細目、科目表、学則等諸規程、各授業内容要旨等を併せて掲載し発行している。このため必要不可欠の冊子であり、特に評価、意見の聴取は行っていない。 注(ア)と同じ

・授業計画等を変更するときに、多少問題が生じる。

・少人数授業の場合、授業登録した学生をみてから、授業内容を大きく変更せざるを得ない科目もある。この点、すべての科目に横並び式に同程度の形式、分量でシラバスの作成が要求されることには無理があった。
　講義内容を大幅に変更するときは、シラバスから書き直す必要がある。シラバスに記載された授業内容を消化するという意識が働く恐れがあり、その結果授業全体の柔軟性が失う可能性が心配される。

・担当者によっては、原稿を書いた時期と講義の開始時期がずれるため、異なる内容の講義となる場合がある。

・具体的な点について、今後考察する必要がある。

・経費面での負担が大きい。

・教官が授業する上で(特に進行速度面で)拘束され、柔軟な対応ができにくくなる。

・授業は学生の反応を見ながら対話的に進めるケースも多いので、必ずしも計画書に書いたとおりには進行しないこともある。この点は学生に説明すれば大体了承が得られるとは思われるが、一部の学生には不満が起るかもしれない。

・持ち運びに大きすぎた（Ａ４版）。

・作成配布後に変更される場合に混乱する。

・半年から一年前に内容、教科書等を決めなくてはならない。非常勤講師新任教官担当のものが空欄になる。

・授業の柔軟性に支障がある。実際の授業にマッチしないことがある。Ａ４版で605頁あるため持ち運びしにくい。

・特にないが大部になりすぎ資源を大量に必要とするようになった。

・持ち運びに不便。

・作成にかかわる者は、多大の時間と労力を費やされる。

・全ての面が網羅されていない点。

・全ての授業科目を一冊にまとめたため、約500頁と厚くなり、学生の利便性に欠けた。又作成費用がかかりすぎた。

・授業のフレキシビリティが失なわれるおそれがある。

・取りまとめがいろいろな面で煩雑であり、そのため作成に必要である時間が相当膨大である。作成に中心となってたずさわった教官にとっては研究のための時間をけずる必要に迫られた。

・臨機応変の措置をとりにくい。

・毎年学生に配布しているので一人の学生が６年間で何冊も持つようになり経費のムダが多い。

・あまりに早くシラバスで授業内容の詳細につき情報提供することになった結果、開講後学生のナマの反応を見ながら臨機応変に授業を組み立てていくという面ではかえって難しくなったように思う。

・講義計画の修正に不都合である。

・学部として統一したシラバスを作成すると、各学科独自の内容等が表わしにくくなる。

・項目や表示方法を全学的に統一されると、却って研究科の独自性を表わしにくくなる。

・「授業要目」との重複を解消するため一本化したいが、学生個人に配布するには携帯に不便である。

・冊子と成して全学生に配布するため、当該学生にとって不要の科目(他学科の科目等)も多く含まれるものと思われる。

・あまり詳細に内容を提示した場合、授業編成の自由度が失われる恐れがある。

・授業の進行が授業計画に制約されることがある。

・特にないが都合により教科や教室等を変更した際には連絡の徹底が必要となる。

・最新の話題やトピックスを入れた内容を計画する場合には記入しにくい。

・シラバスの狙いは何なのか教官側も学生側も十分に理解していない。アメリカの大学では、契約書的な性格をも併せ持つと言われるが日本ではそのような慣行は形成されていないし今後も形成されないだろう。一冊に合本したものは、毎回の授業の際に携帯に不便であり、したがって授業に持参する学生も少ない。個々の教官がそれぞれの授業の冒頭に授業プランを手渡す方法もある。

・シラバスを柔軟に使いこなすことができればさしたるデメリットはない。

・実際に行っている授業とシラバスの内容が異なっている授業があるのも事実でシラバスが明確に表示されている分だけ授業に対するとまどいや不満の声もある。

・シラバス作成の検討時点で次のような懸念、危惧が提起された。
　研究創造活動をベースにした大学での個性ある授業内容や多様な形態の喪失。
　新鮮な興味ある最先端的テーマやトピックスの導入ができなくなる。したがって、創造活動に根ざした大学教育の良さや重要性が低下していくのではないか。

・学部としては費用が持ち出しとなり、研究費が圧迫される。内容を充実させると費用がかさむこと。

・分厚くなり過ぎて、気軽な持参に不都合になっている。

・各回ごとの授業テーマ、内容に実施上ではズレや洩れもあり、学生から苦情がでた。

・予定(予告)通り進まない場合、当然評価が低くなる。 学期途中に於いての内容変更が困難を伴う。

・型ちにはまった講義になり、教官の研究から派生する面白い内容、教官の研究者としての話ができなくなる等、教官の個性がでない講義になってしまうきらいがある。

・計画にしばられて、学生の理解度に応じた進行がおこないにくい。

・シラバスにとらわれすぎて、その時々のトピックス等に時間を割くことができず、講義全体の余裕が欠けてしまう。

問５(9)シラバス作成の各層の受け止め方について
(ア)学生の受け止め方（概括的にご教示下さい。））

・全般に良好

・良

・大変喜ばれている。

・極めて好評である。

・評判がよい。

・好評と思われる。

・好評（受講希望の授業の検索ができる等）

・概ね好評である。

・一部の反応ではあるが概ね好評である。

・おおむね好評(アンケート調査は行っていない)

・おおむね好評。 他学部の学生から配布の要求がある。

・学生に対してアンケートを実施した結果、概ね良好な回答を得た。

・多数が歓迎

・好意的

・好意的（だが十分利用しているようには見えない）

・概ね好意的に受けとられているが、今だシラバスに頼らず安易に授業を選択している者もみられる。

・肯定的

・好意的かつ有用なものであると受け止めている。

・有意義である。

・特に調査を実施してないが、概ね良好であると思もわれる。

・調査中

・不詳（今後アンケートを取る等の調査が必用）

・作成して一年目なので、まだ評価は出ていない。

・平成８年度から配布のため学生の意見を聴取しておりません。

・平成８年１月に配布したばかりなので、今のところ不明。

・平成７年度から作成したため詳細は不明。

・第一回目のシラバス作成であり、その効果についての分析、評価を行うまでに至っていない。

・作成初年度でまだ把握していない。

・調査しておりません。

・内容がわかり、授業計画をたてやすくなった。

・活用されていると思う。

・授業の内容等も把握でき目的をもって授業を受けることができる。

・授業の目的が見え予習及び復習が可能となり大変助かる。

・あらかじめ授業の概要が分って良かった。

・概して無関心、反応は感じられない。

・授業の内容等について把握でき、授業を受けることができる。

・受講選択がし易くなった。

・作成することによって、時間、時期等の計画がたてやすく学習効果があがる。

・なかったら困ったと思う。(広範囲のバックグラウンド、多数の大学卒学生)

・掲載事項について若干の要望はあるが、多くの学生が、特に科目選択、学習準備のための情報提供資料として有効に活用している。

・授業内容をあらかじめ知ることができるため利用度が高い。

・いままでの授業概要では示されていなかった部分が明らかにされていることへの驚きがうかがわれた。

・授業の内容が理解しやすい。

・講義内容が判りやすくなった。学習準備が出来る(講義の参考書などが示されているので事前準備が出来る。) 履修計画が立てやすくなった。 講義内容がその回ごとに明示されているので、受講準備が出来る。

・全学統一的な作業として学生による評価のアンケート等は実施していないが個別の授業担当者の調査では概ね好評である。

・細かい点は分からないが、全く何もなかったときよりは良くなったと思っていると思う。余部のはけ具合が良いので評判はかなり良いと思う。

・授業内容が解かって有効である。

・従来から「履修科目紹介」等を配布していたので、受け止め方に大きな違いはないが授業進度及び成績評価方法などシラバスで明記するようになった事項に対しては関心が強くなった。

・授業に関する必要な情報を得ることができて便利である。

・費用をかけて装丁してあるので、それなりの重みを持って受け取っている。

・授業科目毎に授業内容が詳細に明記されているので授業計画(予習など)がたてやすいこと。

・学生便覧と重複している部分もあり教科書、参考書を確認するには役立つが、十分活用できなかったという意見が多かった。

授業前に講義の内容がつかめるので良い。

・履修方法及び履修科目選択等に大いに活用している。

・科目選択の参考になるが、厚く重すぎて持ち歩くのに不便である。

・授業の全体像がつかめることと、他の授業との関連性か理解できたことで有効と思われる。しかし、選択科目が多い場合は、不必要な科目についての記載は無駄になってしまう。

・授業選択時の参考として好評を得ている。

・学習計画の編成、または、授業がシラバスどおりに行われているか活用できる。

・科目選択及び学習準備に役立っており好評である。

・所属学科に必要な講義だけでなく、他学科の講義内容を知ることができ必要な講義の聴講プログラムを組み立てられるようになり好評である。

・科目を選択する上での参考資料程度の位置づけ。授業内容よりも必修か選択か等の履修方法への関心が強い。

・履修科目を選択するのに便利である。

・授業科目選択の際に参考にしている。

・科目選択の参考になるとしておおむね好評。

・全体の流れが前もって把握できて良い。

・まじめな人には役立つ。　教官によって記述の内容に精粗の差が大きく、役に立たぬ場合もある。載ってない科目があることが不満。

・おおむね学生の参考になっているようだが自分の選択しない科目についてあまり熱心に見ていないようである。

・シラバス通りに授業をする教官が少ないのでシラバスへの信用度が低いこと。

・履修科目選択のための資料、履修科目の概要(授業内容 評価方法 教科書 参考書等)を知る有益な資料として利用され、利用度はかなり高い。

・必ずしもシラバス通り授業が実施されていない。

・学生はあまり参考にしない。

テキストについては予算の関係上有料化(学生分印刷代)しているので不満も多い。

・学生が系統的に履修計画が立てられやすいような履修ガイドを示してほしい。シラバスの内容の統一がとれていない。また内容と実際の授業とが異なっている。携帯に便利な方法を考えてほしい。

・全体的な意見を聞く機会がなく不明である。

・新入生には概ね好感を持って受け止められている。

・今年度は試行版で、1―2年生が使いにくいため、4年生の意見を聞いた所データの質に不均一性があり「あっても悪くない。一回は眺める」更にインタラクティブなものの方がよいという意見あり。

・各科目の内容がよく分かった。

・授業を受けるためのある程度の目安になるという学生が比較的多い。

・予習、準備がしやすい。

・科目選択がしやすくなった。授業内容がよくわかり勉強しやすくなった。

・計画的な学習が進められる。

・授業内容の概略もあらかじめ知ることができ選択のための手がかりとして活用できている。

・１年次で配布され授業履修計画を立てるときには参考にしているようであるが、2―3年次生は教務窓口で参照している程度である。

・授業の進行予定を予め把握することができる。

・科目を履修するための情報源となった。

・８）ア）　に記述　（注）　学生サイド:履修内容やポイントが明確になり学修効果が大となる・

・講義内容があらかじめわかるので、必要な授業科目だけを申告することがきる。(並立する科目の選択などの時に参考になる)

・情報公開上役立つ。

・従来の授業案内に比べ具体的でわかりやすく、予習の参考となった。

・授業に対する予備知識が得られて、授業の選択が行い易くなった。

・学生はシラバスを良く見ており授業の参考としている。

・情報として必要な印刷物。

・授業科目を選択する際の有効な資料としている。

・従来の「講義概要」に比べてシラバスの方が受講科目を選択するための資料としては有効という程度の認識はあるようだが、その意義について未だ十分理解しているとは言い難い。

・受講科目選択の際の判断資料として活用。その科目の全体構成が理解しやすい。

・授業内容等がわかるので、科目を選択するときに役立つ。

・授業内容の概要があらかじめ分かり履修計画が立て易い。

・科目の選択、学習の準備及び予習、復習に利用できるので良い。

・授業内容が具体的であり選択科目を選ぶ際に参考になる。　また全体内容が把握できる事により予習等が容易である。

・前もって授業の詳しい情報が入手できるので、科目登録の参考になるほか、授業に対する不安も解消される。

・早い時期に授業内容を知ることができる。

・科目選択、学習準備に役立ってよい。

・科目選択時に役立つと好評である。

・学習及び授業の目的等が把握出来たと思われる。

・授業の狙い、テーマ内容等を把握し大いに参考にしている。

・授業の狙い、テーマ内容等がわかりやすいので良い。

・１－３年生には好評である。

・もう少し詳細なものがほしい。

・分かりやすくてよい。

・授業内容が事前に把握できる。重いので持ち運びに不便。

・内容をさらに充実してほしい。

・科目名とその概要がわかるので、希望の科目の受講登録ができる。

・授業内容等が記載されているため、専門分野のことを考えて、受講計画をたてることができる。

・授業内容が明確になったことに関し評価があった。

・学部あるいは学科の講義体系全体の把握に役立つ。事前の各講義内容の把握に役立つ。有意義であると思われる。

・約６割の学生がシラバスに掲載されている授業のねらいや概要にひかれ受講を決めているというアンケート結果がでているので、概ねよい結果として受け止められている。

・試案のため、学生への配布をしていない。

・さらに詳しい内容を入れてほしいとの意見が多い。

・自身授業の受講計画が出来て良い。

・予習、復習等の授業計画が立てやすくなった。

・授業の流れや目的が判り、参考文献等が示されていることで授業に対する認識が深まった。

・授業全体の流れをあらかじめ知ることができる点で便利である。授業の初回に出席して様子を見る。手間が省ける。

・授業のねらい概要が年間を通して記入されているため授業課目選択のさい良く活用しているので好評である。

・専門科目のため選択の余地がない。

・学生にとっては受講科目の選択に大いに役立つ。特に試験方法及びテキスト等については前もって知ることが出来たいへん便利である。

・履修計画が立てやすくなった。

・授業選択に便利。

・携帯しやすく週刊誌程度の厚みにしてほしい。

・冊子が厚いので持ち運びが不便である。

・大学生活を送るうえで単に授業のことだけでなく他方面について記述してあるので非常に便利である。

・授業科目選択に際して用いるのみで、授業を聞き、復習、予習する上で絶えず参考にするというふうではないようである。

・授業を履修する際の参考資料としてまた予習などに役立っている。

・科目の授業内容が分かり必要とする科目の判断がしやすいとの意見がある。

・科目を選択する場合に有効であり、また学習の指針として利用できる。

・履修計画作成、授業選択の参考としている。

・科目選択のための情報提供及び授業に対する予習、復習等に役立っている。

・科目選択及び準備学習の参考となり、授業内容の理解を深めることができる。

・科目選択、学習準備等の情報提供となっている。

・具体的な声が聞こえてこないので不明。

・授業内容、教官の教授方針等が事前に把握でき、自己学習を進める上で有用である。

・授業科目の選択に不可欠である。

・授業(演習)の計画がたてられ準備がよくできる。

・授業内容を予め知ることができるので選択時に有用であるし、授業に出られなかった分を後でフォローすることも容易になったとの感想あり。

特に直接評価を聞いたことはないが、聴講科目の選択に利用しているようである。

・科目選択に役立つ。

・すべての科目が統一フォーマットにより記載されているため見やすく、情報量が多いため、興味ある授業を見つけ出し易く好評である。

・科目選定あるいは履修コース選定に対する効果的な情報を得られる資料。

・利用しているように見受けられる。

・選択科目の資料に利用していると思う。

・便利だと評判が良い。

・学生にとってはあまりにも内容が細かく分量が多いため読みづらいとの意見が強い

・前もって準備ができ計画的に授業が受けられる。

・平成7年度に初めて作成したので、まだ全員が十分使いこなすには至っていないが今後次第に有用さが理解されるようになると思われる。

・必要不可欠

・（８）の理由により、特に現時点で評価、意見の聴取を行っていない。

（注）　平成８年度以降は、各授業の内容要旨について掲載内容を充実させた「講義概要(シラバス)」として発行予定であるが、平成７年度までは、「授業科目履修案内」として履修細目、科目表、学則等諸規定、各授業内容要旨を併せて掲載し発行している。このため必要不可欠の冊子であり、特に評価、意見の聴取は行っていない。

・授業のより詳細な内容を求めている。

・成績評価の方法等、より詳細な内容を求めている。

・学習するうえで役立つので毎年作成の上配付してほしいという学生が多い。(毎年度作成する予定である。)

・講義の選択準備に活用している。

・評価が高い。　作成内容にアンバランスがある。

・授業の目標や具体的な内容等を事前に知ることができ、日々の学習に役立てることができる。

・学習計画が楽になり、また数学の理論体系としての把握に役立った。受講計画をたてる上でぜひ必要なものである。学科共通科目ならば内容の紹介に意義があるが、専門科目については事実上、必修もしくは選択必修のものが多いのであまり意義を感じない。予習にとても役に立ったという意見が多い。シラバスによってより具体的な授業内容の情報を得られることとなり、積極的な受講計画が立てられた。

・計画的に学習できるので評価が高い。

・最初に１度だけ目を通して終わってしまい、必要なものとは考えていない。

・授業全般についてよくわかる。

・具体的には、今後アンケート調査を実施し評価する。

・詳細な情報を得ることができ履修の際参考となる。

・科目選択、学習準備の手引書として好評である。

・学年始めの授業選択には役立っているが、年間を通して利用するものとなっていない。

・授業内容、進度がわかり有益である。

・授業内容の把握、試験およびレポートの有無、講義の目的の把握等に利用している。

・授業に役立たせている。(予習、復習のめやすとして利用できる。)講義計画、参考書が事前に提示されているので予習に大変役立つ。

・あまり利用はしてないがあると便利だとの受け止め方であった。(学生へのアンケート調査の結果)

・履修計画にあたり選択の参考になり概ね良好である。

・履修計画の作成上、便利なものであった。

・シラバスの有効性を評価した上でかなり活用している学生も認められるものの、大多数の学生はそれほどの関心を示していないように見受けられる。

・もう少し多くの内容を掲載するようにしてほしい。実際に受講すると授業の内容が異なる場合がある。

・肯定的だが授業科目数が多いため、重たくて持ち運びに不便という不満を持っている。

・持ち運びにくいためあまり利用していない。

・わかりやすくなったが、もちはこびに不便。

・非常に有益であるが、ボリューム(かなり大部なため)に関して若干の不満がある。

・選択科目を選ぶのに有効。

・授業内容をあらかじめ周知でき、予習が十分に行えることにより学習効果が上がる。

・年間の授業計画を念頭において、学習計画を立てたり、全科目の内容を比較検討することで効果的に学習することができる。

・シラバスはあって当然。もう少しわかりやすくする工夫がほしい。

・授業の内容がよくわかった。あらかじめ準備ができる。

・複雑なコース、カリキュラムに対しての履修方法並びに各授業科目、外書、演習等の授業内容が詳しく掲載してあり、非常に参考になると思われる。

・授業の概要が前もってわかるのがよい。

・履修計画に対して十分な対応ができる。

・科目選択に活用し、また授業全体の展開や流れがわかる。

・試験の準備に便利である。およその授業内容がつかめ、計画だった勉強ができる。参考図書を探すのに利用できる。

・調査してないが、当初の目的が達成されていると思う。

・授業科目の概要、講義内容がわかるので授業が受け易い。

・学生に対しシラバスの利用についての調査を行った結果、ほとんどの学生が「科目の選択の時」、「授業内容を知るため」等に活用している。また、内容については90%以上の学生が満足しているとの調査結果を得ている。

・一冊が厚すぎて使い難い。授業科目の選択に役立った。

・履修に役立つ。

・科目選択がより容易である。

・必要事項が整然とまとめられているため、全体的には非常に分かりやすい。また、予習が可能であり、授業の取捨選択ができる。

・自分の専攻以外の授業の内容を予め知るために便利。

・従来の講義要綱より詳細な情報が得られるため、履修計画を立てる際の効果が大きくなった。

・各科目あらかじめ計画することができ少しは役に立っている。1度見れば後はあまり利用しない。

・全般的に冷淡。積極的活用について指導の必要がある。

・入学から卒業までの履修計画が立てやすく、毎回の授業内容が記載されているので、非常にわかりやすく予習等に役立っている。また他の専門教育課程及び他学部の授業内容を知ることができる(データベースで)。

・授業の全体像が前もって理解できる。

・テキスト等を知ることができ授業選択時の参考になる。

・授業の目的や概要を知ることができ、授業選択の指針として役立っている。教科書等の情報や成績評価の方法が示されており参考になる。授業のスケジュールが示されているので進捗状況が把握しやすいなど概ね肯定的に受け止められている。

・受講科目の概要が容易にわかることにより更に計画的に自主学習が進展する一方、正課授業と課外活動との良好なバランスを維持することができる。

・授業科目選択の資料として役立っている。

・授業科目選択等に役立つ。

本学部では数十年前から学生が履修計画を作成するための「授業計画」として発刊していたので、学生は必用不可欠なものとしてとらえている。

・年間の授業科目名がわかるので計画的に単位の取得が出来る。

・シラバスを見ると他学科の授業内容がわかり、科目の選択がしやすくなった。

・特に意見は集約していないが、学生のコース選択に大変有益であるとの意見が多い。

・科目を選択する際の基準として便利。授業を受けるための心構えができる。

・授業内容がわかり易くなり、科目の選択に役立つ。

・特に現れていない。

・授業内容が履修前に、より具体的に知られるため、履修科目の選択履修計画の作成に役立っている。

・従来の教授要目に比べ、修学上の示針が具体的に示されるので歓迎されたと思う。

・自分が受講したい授業の内容をシラバスで確認することができる。また科目によってはどの先生がどういった分野に取り組んでいるかがわかる。

・必ずしも十分活用しているとはいえない。読む訓練ができていない。

・各授業科目の概要は理解しているが、各授業科目間の関連については理解されていない。適切なガイダンスをしないとバラバラに履修することになる。

・必ずしも十分に活用していない。

・機能、系統別カリキュラムによる授業科目の詳細が把握でき個別学習目標が呈示されていることから自己学習の資料となる。

・受講する科目を決める際の参考になることもあっておおむね好評である。しかし充分活用しているとは思えない。

・シラバスがあった方が前もって講義内容がわかる。

・授業内容が把握できる。

・直接の専攻分野の授業に関する情報については、従来から持っていたが、専攻以外の分野の授業に関する情報を得やすくなり好評である。

・受講前に目を通しよく活用していた。

・学生からの不評は聴いていない。

・おおむね良い。授業のやり方に対する希望を叶えてくれる。

・授業日程、内容、試験日程が前もってわかるので計画をたてやすく好評に受け止められている。

・活用している。

・情報として有用性は認められるもののまだ充分に活用しきれない。分厚いので携帯に不便。

・講義を選択履修する上での参考資料。

・各科目の内容や教科書、参考文献などが分かりやすいし特に予習に役立っている

・事前に授業内容を知ることにより、選択科目の履修時に自分の興味のあるものを選択できる等好意的に受け止めていると考える。

・授業の内容はもちろんのこと、全般的な流れが早めに把握でき好意的に受け止められていると思う。

・学生の意見をまとめて聞いてはいないが、概ね好意的に受け止めていると思われる。

・学生としては、科目の選択が容易になり、一年間の授業計画を立てることが可能になった点、メリットがあるとしている。

・講義内容を前もって知ることができるので、受講科目の適切な選択ができ、履修計画を十分に検討できるようになったものと思われる。(注)（8）ア)と同じ

・良い道案内ができたと思われる。また、学生の望む授業が選択できること。

・授業開始前に全体を把握し、計画を立てるのに役立てている。

・授業のガイドラインとしての効能は学生側も評価しているようだ。

・シラバスが作成されて当然である。

・授業計画について総合的に把握できる。

・シラバスの内容と授業の内容にくい違いがある。シラバスの表現で不明なものがあったり、内容を充実する必要がある。

・学習内容のチェックに利用する学生も一部いるが、最も関心が強いのは「評価方法」のところであるようだ。

・利用する学生が増えてきて履修計画に活用している。

・ 概ね良好であり他学部学生にとっても、教職科目を取るときには役立っている。

・全体的な授業計画を知ることにより、予習や文献の準備などが効果的にできた。

・受講計画、参考書の選択に役立っているようである。

・講義の流れがつかみやすいため、概ね好評だと思われる。

・全般的に有用と受け止めている。講義との一致を良くする点で改良を要する。

問５(9)シラバス作成の各層の受け止め方について
(イ)教官の受け止め方（概括的にご教示下さい。）

・概ね良好

・全般に良好

・良好

・良好、リアルタイムの情報提供を望む

・好意的（ごく一部 1/70に拒否反応）

・好意的に受け入れられた。

・好評

・概ね好評

・評判がよい

・好評（担当授業のねらい、内容等をあらかじめ学生に周知できる等）

・特に調査はしていないがおおむね好評。

・ おおむね肯定的。

・非常に有用と思われる。

・極めて有用である。

・良

・肯定的に受け止めている。

・有意義である。

・特に調査していない。

・作成して１年目なので、まだ評価は出ていない。

・初めての試みなので手間がかかった。

・平成７年度に初めて作成したので執筆要領にとまどった。

・あまり活用されていないと思う。

・必用と考えている。

・自分が担当する以外の授業の内容を知り、教育内容を調整するのに有効である。

・教官が相互に授業内容を把握することで、授業内容の重複をさけることが出来た。

・講義内容の見直し及び関連教科との内容調整に役立った。

・自分の授業の狙い等を他の教官と調整でき計画しやすい。

・他教官の講義内容が理解でき、重複が避けられてよかった。

・教官においては授業内容が他の授業内容と重複しないように出来るので良い。

・各科目の内容が細部迄明らかとなり、学生の教育上有益。各教官による教育の重複部分が明らかとなり、効率的教育が出来る。

・他の教官との間の授業内容調整のための資料として活用できることもあり今後とも作成を続けていくべきと考える。

・教官同志で授業内容が重複しない様、調整する事ができる。教官が異動しても、シラバスにそった内容を学生に教示できる。

・教官相互の教育内容の重複をさけるなど教育計画をたてる上で役立つ。

・他教官の授業内容が分かり、授業効率の向上と授業内容の重複を避けるためにも必用である。

・工学部全学科のシラバスなので、授業内容が把握できるため、内容調整が可能となり大変役に立つ。また学生に対し、授業内容を前もって知らしめているので、授業に入りやすい。

・他の教官の講義概要を把握できるので、授業内容の調整等、授業実施に工夫することができる。

・講義内容の重複をさけるのに役立つ。

・授業内容の重複が防止できるとの意見がある。

・授業内容の調整が楽になり、その分講義内容の自由度もふえた。授業の目的、講義計画等を示す事は、教官側にとっても大切なことである。毎年、多忙の時期にシラバスの原稿依頼があるので面倒。各教官の講義内容の重複が防がれ、各対象学生へのレベルをあわせるのに役立っている。シラバスの内容に縛られる心配を感じつつも、学生に対して自らの授業内容をより具体的に提示することができた。

・教官の間の授業内容の調整に役立つ。

・他の授業科目の内容等が把握でき、授業内容の調整に役立つ。書式が統一されるので、その範囲内で表現しにくい面もある。

・各科目での重複指導を避けることができる。特に内科と外科での消化器等の重複がないように授業計画をたてられる。

・教官としては、授業内容の調整が可能になったことで、教官の間で系統的なカリキュラムが組めるようになった点にメリットがあるとしている。

・授業内容の概括的なレベルが把握でき、重複箇所が省けること。

・他の教官の授業内容を把握できるので、授業の重複を避ける等大変有用である。

・類似した教科科目における重複のチェックが可能になった。

・学生に授業に対する認識がでて教官自身も授業に対する取組み意識が明確になった。

・他の教官の授業との兼ね合いを考えることによって自分の授業内容の強調する点を考えることが出来た。

・履修上の手引きとして有効に活用されている。今後は個々の科目のみでなく総体的な履修指導の資料として行きたい。

・教育内容、方法の改善に有効である。

・学生とのコミュニケーションが容易となる。

・教官相互に授業内容がわかり合えた。

・概ね積極的で好意的である。

・学部、学科の中で教育分担が明確になったこと、教官相互に授業内容の比較、検討あるいは変更、調整などを図り易くなったことなど、作成を評価する声が多い。

・シラバスの必要性、有効性については、大多数の教官が認めている。但しあまり細部にわたる記載は、授業進行その他の状況による臨機の対応がしにくい等の意見がある。

・授業時間内に周知する事項の概要が記載されているので、学生に理解されやすい。

・詳細はシラバスにすればするほど見なくなるのではないかとの指摘を受けている。

・授業についてなぜここまで明らかにしなければならないのかという反発が多少見られたが、時間の経過と共に理解をしていただき、最終的には積極的に協力していただいた。

・他講座の授業内容を把握できた。

・講義内容を回ごとに示しているので、その都度説明しなくても良くなった。他教官の講義内容が一層判るようになった。

・次年度の予定を数ヵ月前に提出しなければならないことについての不満等があるが、趣旨そのものに対する反対はない。シラバスの導入は当然のことと考えている教官が大半である。

・あまり積極的ではない。現状では反対を唱え難いと思っている人も少なくないと思う。

・教官の間の授業の進め方等参考となった。

・授業内容に関する情報交換として役立っている。

・シラバス作成は、授業担当者として当然と考えている。また情報の交換により授業方法に対する関心が高まってきている。

・学部の教育の実態とその問題点をシラバスにより知ることができて有意義である。

・従来の「講義概要」とそれほど変わらないという声もあるが大学の紹介や留学生の指導などに使いやすくなったという声もある。

・学部全体の授業の中で担当する講義の位置づけが明確に把握できること。

・従来の進め方の確認ができ、授業内容について学生に説明するのに役立った。

・学生の立場で考えれば、現在の「手引」よりも他大学で採用している「シラバス」が望ましい。しかし各担当教官の意識に差がありこれをどうするかが課題。

・学部の内外を問わず相互の授業内容について広く理解を深めることができた。

・事前に授業内容等を周知できるので好評である。

・苦労して作成したのに反して、学生はあまり活用していないのではないかと思われる。

・学生にシラバスを示し、学期末には授業評価を行うことによって教育内容の改善に寄与できる。

・学生への情報提供として好評である。

・他教官の講義内容を知ることができ、それぞれの教官の講義範囲の策定や教科書の選定などの参考になることが多く好評である。

・授業科目の概略を情報として提供することは必用だと大部分の教官はうけとめていると思われる。なお各回ごとの授業内容を掲載したり、成績評価の方法や予習復習の指示する等細部にわたる情報提供を行うことが必用だという合意はない。個別対応に任ねている。

・学生のために必用な情報提供であると認識されている。

・年間計画に基づいて講義を進行するようになった。

・シラバスで示した授業計画に沿って授業を行うよう努力している。

・賛同し協力する方向。

・場合によっては1年以上先の科目内容を記さねばならないことがあることに対しては不評が多い。

・授業内容のとりこぼしが無く、系統的講義ができる。

・授業内容の再検討機会。 学生に研究先端を手短に伝える機会。

・シラバスの有無で特に変わった点はないように見える。

・現時点では「厄介なことをしてくれる」という意識の教官が多い。

・平成4年度より毎年度改訂している。当初は雑務の加重との意見もあったが現在では担当科目の自己点検、関連科目間の授業内容の調整、学生への情報伝達(授業内容、評価方法、参考書、オフィスアワー等)の資料としての意義が認識されている。

・自分の授業を見直すことができた。

・他の教官が何を教えていて、境界領域を各教官がどこまで踏み込むべきか理解でき、きわめて有用なものであるという受け止め方をしている。

・作成の意義は認める意見は多いが授業展開の柔軟性をさまたげるという声もあった。

・コスト削減を念頭において作成する。厚過ぎるという批判も多いのでスリムにするため、様式を縮小するなどの編集方法を考えるべきである。

・必要性は感じない。作成費用が研究費からとられるのは困る。

・多様である。

・積極派と消極派に分かれる。

・他の教官の授業内容がよくわかった。

・シラバスは、授業内容をより良いものにという考えで作成されているので教官がその都度、再確認する点でもよい。講義の予定を早くから立てることになって準備不足を相対的に減らす効果があるが、半年も前から次年度の講義予定を立てることにわずらわしさを感ずる部分もある。

・担当部分の授業内容には関心があるが、他の教官のシラバスには、あまり関心がないようである。教務委員会又は委員はカリキュラム等の調整時に役に立っている。

・より充実の方向に向かっていると評価している。

・事前に情報提供することにより、各授業に関心のある学生が授業に参加する傾向にする。

・作成するための負担は大きいが、科目の情報を学生に提供できる。

・(8) ア)に記述　(注)他の教官の講義内容、類似科目等を把握できると共に相互性が図れる。

・教授内容がシラバスにあらかじめ記入した事項に若干限定されてしまう恐れがある。学生へ教官のプロフィールをあらかじめ知らせることができる。

・情報公開上役立つ。

・計画的な授業がこれまで以上に成されるようになった。他の教官が担当する授業内容を容易に把握でき、各々の授業の参考となった。

・授業を計画的、系統的に進め易くなった。

・学生に自己の授業情報をより多く事前に伝えることができる。

・もっと良い講義要綱にするために、委員会等で検討している。

・年毎に作成し直すのは面倒という意見あり。

・授業科目としての概要及び授業の計画等の情報を学生に提供する。

・他学科と比較すること。

・シラバスの意義について合意はなされているが講義する相当前に作成しなければならないため、講義内容の変更等の可能性も考慮に入れられるように弾力的にすべきという意見もみられる。

・今後より充実させたい。

・他教員の講義内容が詳細にわかるので事前にあるいは同時に履修することが望ましい科目を学生に示すことができる。

・授業の特色を学生へアピールできる。

・学生に対する情報提供が主で副次的にカリキュラム検討の資料あるいは教官の授業内容の調整にも用されている。

・授業計画に沿って授業が進められる。

・シラバスの作成に手数は掛かるが他の教員の授業概要を知ることができ、教育内容、方法の改善等に参考となる。

・授業に対する考え方の違いからか、詳しい情報は不要であるという群と、より詳しいシラバス作成をすすめるべきだという群の２つに分かれる。

・教官、学生共授業に対する姿勢が明確になってよい。

・講義内容の調整に役立つ。他の教官の具体的な講義内容を知り学生の理解度を推定できる。

・教育効果があったと思われる(学生の自発的な学習、教官自体の系統的整理等)。

・講義に入る前に教授内容がガイダンスされることにより、学生の教材の予習等がなされ、授業の効果が向上した。

・学生の学習効果があがっている。

・学生が履修計画を立てるのに非常に役立っている。

・当初は書くことに多少抵抗があったが、現在はおおむね好意的である。

・各講座1ページでは書ききれない。

・他の教官の授業内容がよく分かる。教養的科目の内容を把握することは専門学部の教官にも重要。関連科目、事前に履修することが望ましい科目を呈示できる。

・教官研究費から経費を支出することは困る。学生が有効に活用するかが疑問である。教員養成系学部として、作成にあたっては多様な面がある。

・必用なことという認識が形成されつつある。

・各教官の授業内容が一覧となっていて、学生への説明を省略できるため喜ばれている。

・授業計画を詳細に明示し、評価方法まで示すことには未だ抵抗感があった。

・他の講座の授業内容が種々分かり担当授業との関連ができ好評。

・各回ごとの授業内容明示により授業科目間の連携がとれるようになった。

・教官の授業姿勢(学生へのサービス)の改善に役立った。

・目的意識をもった学生を集めることができる。

・シラバス作成の段階から、学生の顔が見えてくる。授業計画、概要、ねらいを学生に示すことにより、毎回の授業の準備にも力が入り早くから準備に取りかかれる。大変好評である。

・要領がまだよくとらえられていない。

・シラバス作成を通して共通教育と専門教育の相互関連性について理解を深める傾向があり、将来の4年一貫教育の基礎として役立っていると思われる。

・テーマと教育目標を提示したため学生の自学自習が可能となる。

・お互いの授業内容もわかり、自らの講義の目標を設定しやすい。

・授業内容を学生にあらかじめ詳しく説明できるので大変よい。

特に新設間もない学部では、関連する科目の授業内容が知れて都合がよい。

授業内容の概要を知る上で参考にしている。

・上記と同様の意見で（(注)冊子が厚いので持ち運びが不便である）その改善策としてシラバスをデータベース化し、各所に端末を備え、そこから検索できるように現在その構築中である。

・普通　(教官は各授業ごとに更に詳しい授業計画を作成し授業開始時に受講生に配布している)

・現行のシラバスに対して、約半数の教官が量的質的に適当であると受けとめている。ただし、科目によってはシラバスは概括的なものでよいとする意見がある。

・学生への情報提供の場として、必用なものと考えている。

・大学改革の一環ととらえ、各教官が作成に協力している。

・計画的な授業を進められるようになった。

・授業内容に計画性をもたすことができる。

・他の教官の授業の概要などを知ることができ参考となる。自己の授業計画の反省にも生かせている。

・講義要目に比較すると内容は充実したが、これでシラバスと呼べるだろうか。シラバスとするには各科目の頁スペースを増す必要がある。

・作成にあたっては、多くの労力を強いられるが、教育内容、方法等のチェックができ有用である。

・講義の内容と性格を事前に伝えることができるので効率的である。

・積極的な人と消極的な人に分かれている。若い教官の方が積極的。

・近縁の科目の内容を知ることができるので効率的な講義の進め方ができる。学部全体の教育内容を総合的に考えていく上で多いの参考になる。

・今日までシラバスがないのが不自然で、授業内容が教官相互にあらかじめ解ること、学生に知らせることは当然と考えている。

・授業内容以外の指示すべき事項を伝達できる。

・執筆のための作業量は多いが、それを上回る利点があり好意的な意見が多い。

・学生へのメッセージ伝達とともに教官相互間の授業計画調整のための資料。

・授業(講義)概要と考えられている方と授業(講義)計画と考えられる方がおられる。

・授業の進め方の計画がはっきりするだけでなく他の授業の内容がわかるので好評である。

・学生が前もって準備をしているので授業がやりやすかった。

・学生への情報提供を初めとして授業内容の整理・カリキュラムの検討資料などシラバス作成の意義を認識して積極的に協力している。

・学生に情報を与えるためには必要。

・ (8)の理由により、特に現時点で評価、意見の聴取を行っていない。
(注) 平成８年度以降は、各授業の内容要旨について掲載内容を充実させた「講義概要(シラバス)」として発行予定であるが、平成７年度までは、「授業科目履修案内」として履修細目、科目表、学則等諸規程、各授業内容要旨等を併せて掲載し発行している。このため必要不可欠の冊子であり、特に評価、意見の聴取は行っていない。

・事前に詳細な授業計画を立てる困難さがある。

・現在の大学教育においてはシラバスが必要であると考えている教官が大部分であるが一部には不要論者もいる。

・準備時期が前倒しになる。

・作成しにくい。

・他の授業科目の内容や計画を確認でき自らの教育実践を点検することができる。

・学生の学力向上に役立っている。

・評価は良いが、書ける枠が小さく、意図が充分に尽くせない。

・必要性を感じある程度の効果を認めている。

・具体的には、今後アンケート調査を実施し評価する。

・講義を進めるうえでのペース配分がよりわかりやすくなった。講義を始める前にあらかじめ学生に情報を与えることができるので、スムースに講義ができる。

・授業の内容、概要が事前に周知でき効率的である。

・シラバス作成の必要性は認識しているが全学統一様式への反撥は強い。

・必要性の理解が深まった。

・自己点検に役立った。

・仕事量が増すが、やらなければならないことと了解している教官が大半と考えられる。シラバスが授業を進める上の一つの指針となるので教える側も益があると感じている人も多いはず。

・歯学部はほとんどすべての専門科目が必須であるからシラバスは授業内容を把握させることに重点を置いている。

・各教官の講義項目、授業内容が明確になり、教官から好評である。

・全体的な授業内容を把握するのに便利である。

・授業を効果的に進めることができ概ね良好である。

・シラバスの書式の統一について教官の調整に神経を費した。結果的には教育上、有効な資料となり得た。

・基本的には賛成であるが実行力のあるものにするには、今後とも改革が必要である。

・肯定的。他授業科目の内容が参考になる。

・概ね肯定的であるがサイズ等の意見が多い。

・ゼミ生等への科目選択指導の際に有益である。

・講義の計画を立てる上で有用。

・授業内容、教科書等をあらかじめ指示しているので授業がやりやすい。

・関連科目の教育内容や教育方法等を知ることが可能となり、必要に応じて教育担当者間の連携を行うことができる。

・あって当然。 授業計画を立てる上でも利用できる。

・履修指導がしやすくなった。

・１月現在で、来年度の詳しいシラバスは作成できないという教官もいる。

・更に充実した内容にしたい。

・原稿作成が少し面倒であるが、カリキュラムの全体像がわかるメリットがある。

・計画的な授業が立てられて好評。

・授業に対する責任感が増大している。

・1年間の授業、実習の計画性が高まった。

・関連分野の講義内容を知ることができ、また、講義を系統的かつ効果的に行うことができるなど、有用であると受け止めている。

・授業内容の全容を把握しやすい、学生の指導に有益である。

・作成の初期段階では、一部教官から年間の計画は流動的で年度当初に立てにくい等の意見があったが、現時点では全ての教官が協力的である。

・ずしも授業計画の表示どおり授業が進展しないので、表示の検討が必要である。

・パソコンに入れて必要な部分だけ学生が取り出せるようにしてはどうか。

・自己評価に役立つ。

・他の教官がどのような授業をしているか把握でき自己評価に役立つ。

・学生への授業内容、計画等を示すことがより容易である。

・時間と労力がかかる。

・授業が計画的になる。他の教官の授業内容が判り面白い。授業のフレキシビリティが失われ易い。

・教官各自の授業を計画的に実行し、授業内容を教官相互で調整できるなど全体として教育効果を高めるメリットはあるが、反面柔軟に授業を実施できないというデメリットがある。

・全学的に作成して日も浅く内容的に統一できてなく、よりよいものにしていく事を望む。

・比較的良好。活用方法について更に検討が必要。

・体系的、計画的な講義ができるようになった。学生の講義に対する準備ができており講義がしやすくなった。

・必ずしも授業計画通りにいかない場合がある。

・計画的な講義、実行度の増大に役だった。

・学生への基本的サービスであると共に講義を見直す好機であると積極的に評価する教官が多い反面、種々の理由で嫌悪感を持つ教官も存在する。

・授業内容、評価方法等 今後の教育方法や授業計画の参考となっている。

・一年以上前から具体的な授業計画を立てにくいという一部意見もあった。

・他教官の授業について情報を得られ、学生にも情報を与えることができる

・授業のねらいや概要を学生に対して知らせ、履修の参考に供することができたという点でおおむね積極的の評価されている。反面大学院の演習について過度に詳細なシラバスを作成することについては批判的な意見が強い。

・授業計画の全体像を掲示しているので、自己点検の一手段となる。

・特に意見は集約していないが 学生のコース選択に大変有益であるとの意見が多い

・特に現れていないが、項目について相違した考えがある。

・授業計画を公表することにより より計画的な講義日程で授業を行うこととなった。また授業内容に対する責任感が増した。

・授業計画が示されることになるので 実施面での制約がでてくる。

・自分の授業の内容を学生に紹介することができる。また シラバスにより他教官のとらえ方等を垣間見ることができる。

・有用であるので改訂を加えていく必要がある。

・本学部のシラバス(講義概要)は長い歴史があるが、授業計画型のシラバス作成には教官の合意を得られない。

・不慣れな教官もいて形だけにとどまったケースもある。

・運営がスムーズになり大変助かっている。

・講座の粋を超えて一つの授業科目に出講することとなり、毎年度の改訂及び授業担当教官の調整には教科主任を初めとする強力なリーダーシップが必要とされる。

・シラバスをあらかじめ提示できる授業とそうでない授業(ゼミや演習など)があり全授業の表示を一様化することにとまどいを覚えている。

・特に異論、反対はない。

・授業進行の基準設定として必要。

・全体像がわかりやすくなり、作成してよかったと思われる。

・長所、短所があり出張による休講が突然生じた場合、計画的に変更できる長所と自由度が少ないと言う短所がある。

・授業計画を綿密にして授業の体系化ができる。

・他の教官の授業内容、進め方等についての理解が広がった。研究面での相互交流の進展とともに講座間の垣根を低くするものとなった。

・各教官の講義内容や授業の進め方がよく理解できた。

・日本の大学では従来「講義概要」のような形で簡単な情報が公開されていただけであるが、シラバスが従来のそれとどのように異なるのか十分な論議を積まれていない。したがって、非常に簡潔な記述に留める教官と詳細な講義計画を記述する教官とがいる

・教官お互いの講義内容を知ることができて好評である。

・作成に際して繁雑さはあるものの受容されていると考える。

・労力は大変であるが今後の学生による授業評価等も考慮に入れ充実すべきである。

・授業を行う上で役に立っている。

・積極的に活用しようとする教官が増えてきている。

・好意的に受けとられ、シラバスを積極的に活用しようとする教官が増えてきている

・講義内容を前もって知らせることにより、受講科目の選択に役立つ。他 講義内容を体系的に理解させることができる。

・授業計画を立てることにより、体系的な講義ができ、学生の理解も深めることができる

・学生と共通理解のもと講義を進めることができた。

・授業計画及び改善に役立ったと評価している。

・講義内容を前もって提示することによって、それがある程度の努力目標になり、計画的な指導を行うようになるという面もある。

・日常の授業内容の整理には役立つと考える教官は多いが、シラバス作成の効能は少し時間をかけて調べる必要があると受けとめられている。

・作成には苦労するが役立っている。

・シラバスを配付したが、学生が予習をしている様子はない。教官間の授業内容の検討に役立った。

・学習効果が期待できる。教育研究体制について検討するための資料となる。

・授業に向けての心構えができる。一つの目安であって、あまりにも縛られるものであって欲しくない。

・評判がよいが若干の改善が求められる。

・他教官の授業内容を知ることにより、自己の授業に取り入れる部分を見出すことができた等、参考になった。

・計画的に授業を進めることができる。反面単調な講義になってしまうことが懸念される。

・賛否両論　(8)イ関係とからめて　　(注)　計画にしばられて学生の理解度に応じた進行がおこないにくい。

・他の科目との関連で授業の進め方を調整できる。

・内容をもっと詳しくする必要がある。

・本大学院開設時から行われてきたことなので、否定的な意見は少ない。ただ学生の授業評価などをみていると、あまりにシラバスにとらわれ、講義に対して受け身の姿勢がみられる点が気がかりである。

・研究科全体の講義内容を具体的に把握できて有用である。

問５(9)シラバス作成の各層の受け止め方について
（ウ)事務官の受け止め方（概括的にご教示下さい。））

・概ね良好

・比較的良好

・良好

・良好、リアルタイムの情報は冊子には限度がある。

・良

・好意的

・好評

・概ね好評

・好評（学生課等の授業内容に対する質問の減少等)

・必要と考えている。

・肯定的

・おおむね肯定的

・有意義である

・特に問題はない

・内容的に不充分と考える。（教官の熱意が感じられない)

・学生にとって講義の指針が示されるので好評である。使用教科書の掲示等が略ける。

・目標を持った授業が可能となり学生に指導しやすくなった。

・授業内容が把握できた。

・学修指導の資料として活用されている。

・学生にとって授業内容をある程度理解したうえで履修するため履修手続き等がスムーズになる。

・履修手続きをする上で多いに活用されているものと思われる。

・学生の履修指導に役立てている。

・授業内容等がわかり学生に対して説明等しやすい。

・授業の内容等詳細について把握できカリキュラムの検討資料としても活用できる。

・授業科目を把握するのに役立っている。

・事務上の学生、教官等との対応がやりやすいのではないかと考えられる。

・カリキュラムの内容のガイダンスが簡略化できた。

・履修の相談時等に活用し、事務の効率化に役立つ。

・開設科目の内容を把握するのに役立った。

・学生が履修するうえで有効と思われる。

・授業内容が理解でき履修指導がやりやすい。

・カリキュラム、履修方法についての相談に役立っている。

・教務的及び学生指導のアドバイスとして参考にしている。

・学生への情報提供として役立っており、事務側でも科目等の授業内容の把握に便利であり好評である。

・教務系の事務官にとっては、学生に履修指導を行う上での資料として活用できるため有用である。

・履修指導上の有益な資料。

・授業内容の明示により、その概要、展開と受講にあたっての必要な事項を学生に伝えることができる。

・学生の履修指導、科目選択に役立った。

・教官の授業内容が把握できる。

・各授業科目の内容及び授業の予定等がわかり教務事務がやりやすくなった。

・各授業を把握するために必要。

・各授業科目の概要が把握でき、履修指導に役立ち概ね良好である。

・教務関係事務官が学生ガイダンスに利用でき活用されている。

・すべての授業の内容を以前より詳細に把握することにより授業関係事務がスムーズに行える面がある。作成上の事務に関しては、原稿から印刷まで、様式を決めたり印刷方法を工夫するなど省力化は可能と思われる。

・各授業科目の内容等が分かり便利である。

・窓口対応がしやすくなった。

・授業内容等の問い合わせに答えられるので、教務事務上助かっている。

・教務学生掛での窓口で指導する際に十分に活用できる。

・教務関係の仕事をする上で、学科の授業がどのように進められているかを知ることができる。

・科目等履修生志願者等からの講義内容等の質問に事務官だけで対応できるようになった。また、学生からの講義内容等の質問が少なくなった反面作成に係る事務量が増した。

・学生や他大学、学部等からの履修等に関する照会に対し、授業内容に関わっても一定の対応ができる。また、所属する学部の教育内容についても概括的把握が可能となり、事務遂行上の参考となる。

・学生が履修する上で情報量が多くなり学習目的に添った選択がしやすくなった。授業内容の把握が事務官にも容易になった。

・学生への履修指導をする上で必要である。

・学生からの履修方法等に関する窓口相談に役立つ。

・学生からの質問等への対応に便利。

・学生に対する履修指導に有益。

・オリエンテーション、修学指導がスムーズに進んで好評。

・学生の科目選択のための情報提供として活用されている。

・学生の修学指導に利用できる。

・ガイダンスの資料になり学生の修学指導に利用できる。

・教官の授業内容について知ることができ窓口対応等で役立つ。

・修学指導に非常に参考になっている。

・他学科聴講など窓口での学生の修学指導が容易になった。反面作成に要する事務量が格段に増大した。

・窓口業務で学習指導がしやすくなった。

・各教官の授業内容がわかるので事務的に便利な点がある。

・窓口での修学指導がやりやすくなった。その反面、作成に要する事務量が格段に増大した。

・修学指導を行う上での資料として役立てることができる。

・学生に対する履修指導に役立っている。

・教官の授業の様子がわかり、学生その他からの質問に対し対応しやすくなった。

・教官の授業内容・方法が把握できるので、教材準備等事務上の参考となる。外部からの授業科目、内容等の照会に対する回答等に役立っている。

・教官の授業内容をより具体的に把握でき、学生に対する履修指導等に役立った。

・各教官の講義内容等で学生への履修指導ができる。

・授業科目の内容等が詳細に記載されるため、窓口での履修指導がやり易くなった。

・授業内容が明らかなため履修指導する上でやり易くなった。

・履修手続き等でのガイダンスの資料として役に立っている。

・学生への情報提供、修学指導事務の効率化等が評価される。

・学生が個々の授業内容を知ることができ、選択科目の履修時に自分の興味のあるものを選択できる等、利点があると考えている。

・学生係としては、学部内外に対して授業内容などの説明が容易になった点にメリットがあるとしている。

・学生へのガイダンスがやり易くなった。

・カリキュラム全体を把握できため時間割や各種資料の作成、また学生の履修指導等に役立っている。

・教官の研究内容(講義内容) を把握することで、業務上、円滑に事が進む事もあるであろうと考える。

・学生の履修指導が容易になった。

・担当教官や授業計画等が正確に把握でき、諸事務手続きの参考になった。

・編集作業等において事務量が多くなり苦慮する面も多いが、作成のメリットが多く積極的である。

・作成に大変な労力をついやす半面、教務事務を担当する者として授業の全体像を把握することができる。

・必要性は十分理解しているし、作成してよかったと思うが経費がかかり過ぎる。

・教育内容がこれほど詳細に明示されることは画期的であり、意義あることと考えられる。今後は作成の目的について、十分な効果が上がるよう充実させたい。

・余分なものを排した内容で、盛られている情報は若干少ないきらいがあり、より充実に向けて検討すべきである。

・学生サービスの観点から必要不可欠と考える。

・学務系とその他の事務系ではおのずと意見が違うと思うので、ここではよりシラバスと密接な学務系事務官の意見を書きます。
各教官から膨大な量の原稿を集め、それを年度末に纏めると言うのは大変な仕事である。大学改革を進めるためとか、自己点検・評価には不可欠なのだなど、作ることの意義は十分分かるが、はたして一人一人の学生はこの分厚い一冊のなかのどれ程を実際に参考としているのかを考えた時、釈然としないものを感じ、同等の効果を期待する方法としては、別な方法もあるのではと思う。

・学生が科目を選択し学習準備をするための必要性を理解している事務官が多いようである。作成のための事務量は増大しており対応について苦慮しているようである。

・多大の労力と経費をかけて発刊しているので、学生の実効ある使用を望む。そのために更に利用し易い内容にする等検討を重ねていくことが必要であると思う。

・学生の教育を充実する一つの方法であり、さらに内容の充実を図り継続発行していくためにも予算措置を願いたい。

・初めての作成でいろいろ苦労はあったが、授業に関する情報を従来よりも詳しく、学生に対して提供できて良かった。

・学生便覧とあわせて、内容が詳細に明記されているので活用しやすいこと。

・他学部等外部の学生からの問い合わせに対しても利用出来る。

・学外からの教員の研究分野に関する照会に対して、これまでよりも回答が容易となった。

・部外者への授業内容の説明並びに演習や外書講読等の事前受講調整等については重宝している。

・科目等履修生等外部からの照会、依頼に対応している。

・外部からの授業内容の照会等には便利である。掲載内容が増えた分原稿のとりまとめに時間がかかり苦労する。

・科目名(英語文字含む。)、科目の概要、単位、担当教官が一目でわかるため、外部に対して説明がしやすい。

・外部からの問い合わせ等に非常に役立つ。

・外部からの紹介(課目等履修生)には有効的に活用している。

・学外者一般への情報提供の資料として役立っている。

・教官の授業に対する熱意が伝わってくる。授業内容の把握が出来ることにより教官に対しての理解が深まり、学生への対応も適切に行える、又他省庁より教官の授業及び研究内容等の情報提供依頼等に活用出来等、好評である。

・各授業科目の講義内容が一冊にまとまっているため、外部からの内容照会に答え易い。

・授業担当教官の講義内容がわかることにより、外部からの照会に対する対応ができる。

・対外的に講義内容を紹介する際に有効である。

・各教官がどのような授業を行っているかがわかる。また科目等履修生や聴講生の募集時に活用することができ外部から見学に来られた人にも 学校の授業内容を知ってもらう上で役立ている。

・外部からの問い合わせ等に資料として活用。

・授業科目の内容等が分かり易くなったので、外部からの問い合わせにも十分対応出来るようになった。

・「教科目系」によって非常勤講師の多い分野では、印刷原稿の取りまとめや集約が遅れ気味となり校正の回数が多くなっている。履修指導上は不可欠のものと考えている。

・作成して一年目なので、まだ評価は出ていない。

・図書館や各学科図書室に全体のものを備え付けておき、個々については各教官が授業のガイダンス時に学生に配布すれば足りると思われるので冊子にして配布付すべきか疑問である。

・各回ごとの授業内容や具体的な成績評価の方法などについても掲載できればと考えている。

・学生への情報提供ができてよい。

・当初事務方で清書作業をしていたが、物理的に不可能となり今年度から教官に作成の主体が移された。

・全体の流れと内容が把握できる。

・教官によって精粗の差があったり漏れている科目があったりすることは困る。

・とくに内容面に関しての評価はきかない。

・事務的に支援している。

・今後、個々の授業科目の廃止、授業科目名の変更、新規開講に伴う授業科目の追加等が予想されるが、事務側で例年 校正照合等の作業が少なくて済むような方法を確立していただきたい。

・「シラバス」作成以前より、「開講科目の案内」を作成しており特に変化はない。

・教務関係事務官が学生ガイダンスに利用でき活用されている。

・印刷製本に比べるとデータベース化により、教官が直接電子メールで提出するので、事務簡素化ができる。印刷製本でのシラバスの配布は経費負担が大きいが、データベース化により軽減できる。

・電子シラバスをインターネット上で公開したことは今後のシラバスのあり方の一つを示したと思われる。ただしセキュリティーなどの問題点も多い。

・諸調査に事務的に役立つ。

・一つの授業を複数の教官が担当する場合、担当する期間がわかる。

・教官との一層の密接な連絡が必要である。

・今後改訂を続けていく必要があるが大量の改訂箇所が予想されるので、充分な準備が必要となってくる。

・授業内容の情報源として役に立つ。共同研究プロジェクト編成等の資料作成に役に立つ。

・データベース化の方向を推進、事務能力の向上を図る。

・履修方法の多様化にともない、シラバスの作成は今後も必要である。

・情報公開上役立つ。

・履修指導に役立った。学生による授業評価があったほうがよい。(作成のため)事務量が増加した。

・授業内容について詳しく知ることができる。

・来年度から導入される新カリキュラムは、学生の選択の幅が大幅に増すため、それに伴う科目選択に迷うことがないよう、学生への履修科目の指針となると思われる。

・印刷までの作成に労力が必要。

・資料として活用できる。

・シラバスの内容を充実し、また読み易い冊子を作ることによって、学生に授業科目選択の機会を保証しなおかつ履修登録期間の短縮及び授業開講日(オリエンテーション)からすぐ履修登録開始等授業科目毎の受講者名簿を速やかに作成することによって授業運営の円滑化が図れる。

・連絡先が明確になった。

・作成の手数はかかるがそれなりの効果はある。

・情報提供をすることで学生へのサービス向上。

・教官の授業予定を把握するのに便利である。

・教材の準備、教室の割振り、ＡＶ装置要求の参考となる。

・事務で印刷しているので若干負担になっている。

・作成に要する業務の増大。

・事務処理上、シラバスから多くの参考事項を得ている。

・シラバスに対する教官の意識が希薄。予算措置。内容をさらに充実する必要がある。作成方法等の改善。大学全体として方針を立てる必要がある。

・現在の「講義内容」では、シラバスとしは、不十分なので、内容をより一層充実できるようにしていきたい。

・役立っている。

・学生からの授業内容の質問が少なくなった。

・授業を選択する上においても、事前に講義の内容が把握できるのはよいと思う。

・学生の履修に際して、受講科目の必要性や重要性を認識させることができ、参考文献や資料等に関する情報を個別に伝えなくてもよいようになった。

・カリキュラムの変革期でもあり、事務的にも作成労力が大変である。

・授業内容について他からの問い合わせに対して回答しやすい。受講生数の多少について要因等がつかみやすい。

・授業を担当する側、受ける側相方にとって非情に有意義であると思われる。

・学生厚生補導に便利。

・イ)と同様　　(注)冊子が厚いので持つ運びが不便であるその改善策として
シラバスをデータベース化し、各所に端末を備えそこから検索
できるように、現在その構築中である。

・学生をはじめ、種々照会に対して授業科目の内容が把握できる。

・改善すべき点がある(編集方針も含め)。

・現在のものが厚く重いため、科目別あるいは開講期別に分冊することも考えている。

・学生の受ける利便が多く、作成して良かったと考えている。

・出身、背景を異にする学生に対し、希望にあわせた授業計画が提示できる。

・授業に関して学生への対応に役立っている。

・7年度の初めて作成したものであるため年々内容を充実し効果あるものとしていきたい。

・原稿集めワープロ入力作業編集等に多大の労力が必要となり日常業務にしわ寄せが生じている。

・授業をサポートする立場から、授業計画が立てやすく大いに有用である。

・原稿が集まりにくい。校正に時間がかかる。

・調書等作成の際の参考資料。

・作成は大学入試センター試験・本学試験等で忙しい時期と重なり大変であるが、学生の履修上必要と思う。

・大学入試センター試験・本学試験・新学期受入れの準備で一番忙しい時期に新しい仕事が加わりこれを仕上げるのが大きい負担である。

・非常に有用ではあるが単純なものに改善することが必要。

・(8)の理由により、特に現時点で評価、意見の聴取を行っていない
　(注)　平成８年度以降は、各授業の内容要旨について掲載内容を充実させた「講義概要(シラバス)」として発行予定であるが、平成７年度までは、「授業科目履修案内」として履修細目、科目表、学則等諸規程、各授業内容要旨等を併せて掲載し発行している。このため必要不可欠の冊子であり、特に評価意見の聴取は行っていない。

・より役立つものにしたい。

・学生の履修計画により役立つものにしたい。

・　大学教育の充実のためには、シラバス作成は当然である。

・シラバス又は講義要綱のいずれか一方で充分である。

・個々に配布できるような予算があればと願う。平成７年度が第一回目の試作品であったのでさらに充実したものを作成できるよう努力したい。

・学生がもっと活用できる形式等に改正する必要がある。

・学生に対する個々の授業に関する案内をする必要がなくなる。

・具体的には、今後アンケート調査を実施し評価する。

・要した経費を考慮すると、さらなる活用方法を検討する必要がある。

・カリキュラムを効果的に実施する上でシラバスは不可欠のものである。

・学生、教官から好評である。

・基本的には賛成であるが、事務量が多くかなりの負担になる。

・サイズや頁数を検討する必要がある。

・卒業判定時に非常に有益である。

・学生指導に役立つこと、また教官の授業計画を知ることのより教官への連絡や各種調査に役立つ。

・事務量は増えたものの教育、研究に役立っていると思われる。

・群馬大方式のシラバスを作成したいと提案したが、全教官の協力が得られなかった。

・大学改革の時期に際して、かなりの複雑な作業が求められる。

・カリキュラムを検討していくうえで、会議等の資料として有用である。

・工学部は7学科あるので、学科ごとのシラバスは利用しやすい。

・学部教育の充実を図るうえでシラバス作成は不可欠であり、今後さらに内容の充実を図る必要がある。

・一冊にまとめる必要はない。記載内容(事項)を検討すべきである。

・冊子にするとぶ厚くなるのでパソコン方式の方が合理的ではないか。

・科目内容等の一般的問い合わせに対する説明が可能である。

・労力と経費がかかるため予算措置が必要である。

・学外者に対して各教官の教育内容を示す参考となった。学生は予想以上に利用している。学務関係職員は教官の教育内容を知るうえで参考となった。

・各教官及び、学科単位の授業計画等を容易に把握できるようになった。

・学年毎に作成した方が経費のムダを省けるのではないか。

・学生の勉学の一助となることができればよい。

・学生へより多くの情報を提供するという面では良いと思う・

・テキスト等が書かれており学生が授業を選択するときの参考となると思われる。

・履修登録時にはよくシラバスを見ているので、選択の参考になっていると思う。

・特に意見は集約していないが、学生のコース選択に大変有益であるとの意見が多い

・特に現れていない。

・事務用の資料としては有用である。
学生配布用としては必要経費に見合った利用価値はない。
理由：課程・専攻等を越えて履修することは少ないので、学部の全授業科目のシラバスを各学生に配布するのは無駄が多い。必要な情報だけを入手できるシステムを早期に稼動させた方がよい。
・現在のシラバスは元々学生配布用として作成されたものとはいい難い。

・必要性は大いに理解できる　・入学してくる学生の多様化に伴い、適格なるガイダンスとなっている。

・シラバス作成により学生に対する教務指導がより統一的で整合性のあるものとなった。

・機能・系統別カリキュラムにそったシラバスのため完成までには校征等に多大な労力を要する。

・シラバス作成の効果と教官及び学生の活用度を調査、検討する必要があると思う。

・講義の回数、担当者等が明確となり、諸調査の際の参考資料として活用することができた。

・スライドやＯＨＰの準備が事前にできる。

・授業効果のうえで役立っていると思う。

・教官の講義内容が分かるので良い。授業内容のオーバーラップが避けられて良い。

・授業内容(どのような授業が行われているか)、担当教官(誰が行っているか)等が明らかになっており、利用し易く好評である。

・好意的だが、作成担当者の負担の増大が懸念されている。

・事前に授業内容、単位数、履修上の注意及び評価方法等を知らせることにより、学習意欲の向上等が図れると考えている。

・学生から履修についての問い合わせが以前より少なくなった。

・作成に苦労している。

・頁数が多くなり分厚く携帯に不便。原稿の校正に時間を費やす。

・教官と学生がシラバスを生かして充実した授業を行って欲しい。

・教育内容、方法の改善に役立つと思われる。

・授業内容説明に活用。

・編集を年間一回にする等改善が必要。

・コピー、製本等の事務量の増加になっている。印刷、製本費等の予算措置必要である。

・発行体制((編集体制)等について検討する必要あり。事務量増大。データベース化が必要か。

・学生、教官だけでなく事務サイドでも利用できるのでよい。本学のことを学外にアピールする資料として活用できる。

・講義概要を知ることにより、教育、研究が身近に感じられ、一体感が増す。

問５(10)シラバス作成に要した経費等について
(イ)作成に関してどのような予算措置が必要とお考えですか)

・印刷経費、打ち込み(外注)経費。

・印刷費の全額ではなく、一定比率での補助制度を作ったらよいと思う。

・作成、印刷経費、データベース化経費等の補助が必要。

・最低限シラバス印刷経費の全額支給。ワープロ入力のアルバイト経費。

・シラバス印刷経費

・印刷製本費。

・印刷経費の増額。

・作成に要した印刷費は配分願いたい。

・印刷製本に要する経費の保障

・印刷費のみの予算措置でよい。

・充実したシラバスを作成するための印刷に係る予算措置。

・特に原稿作成のための経費。

・手書き原稿で作成されたものを業者でワープロ打ちさせるための予算措置。

・作成にあたってのアンケート調査費用について措置されたい。

・印刷費の予算措置。

・印刷費用。

・印刷費、デザイン、レイアウト費、人件費(資料整理のため)、調査費等の経費の確保。

・他機関等のシラバス発行の実情を調査するための経費。

・製本費がかなり高くつくため、その予算的措置が必要である。

・校費(印刷、製本費)。

・印刷・製本費として校費の増額。

・印刷・製本に要する経費。

・校費(シラバス印刷分)年度当初に配分してほしい。

・シラバス印刷費が是非とも必要である。

・原稿作成(ワープロ打込み、校正等)にかかわるアルバイト雇用費を必要とする。

・印刷・製本経費。

・校費(印刷費)。

・印刷費。

・今年度は事務担当で大部分を作成し安く作ったがミスプリ等がかなり見られたのでもう少し予算をかけた方が良いと思う。

・講座費からの回収。

・データベース化するため、各学生研究準備室等へのクライアントパソコン機の設置

・最初に「予算ありき」ではなく、まず「どのようなものを作成するか」が、できれば良いと思います。

・学生数に見合った配分措置が必要と思われる。

・全額配分もしくは配分割合を増やす。

・教育に関する経常経費以外からの配分があるべきである。

・経費が現在全額補助されず、以前よりの経常経費を圧迫しているので全額補助をのぞむ。

・従来の学生当校費では苦しい。 個別の措置か単価アップが必要。

・大学で経費（特に印刷費）を全額補助する必要がある。

・100万円位はシラバス用に準備してほしい。

・ＶＩのとおり　(注)本学群では開学当初より各学年毎にカリキュラム書及び講義、実習用のテキストを作成している。シラバス作成にかかる費用は現在、学群校費から支出しているが年々その費用も増大してきているため、学群の運営に支障を来している状況である。教育内容、方法の改善にかかる経費、シラバス作成等にかかる経費については実費相当分を別途予算立ていただきたい。

・特別な予算措置はとっておりません。

・学生による授業評価の集計、分析、報告のための経費。授業計画のデータベース化。

・ウ)で回答　(注)本学では、講義要綱の作成経費については、学内予算で賄っているため、それなりの予算(前年度の作成経費が根拠)枠しかない。また学内教官層から、講義内容の充実や詳細の講義要綱の作成及び教育内容・方法の改善に係る意見を多数聞くが、それら作成経費については、なんらかの予算枠で文部省に要求することとなる。また、その年に予算が付いても、それらの作成を経常的に続けるためには、毎年要求を繰り返し行っていかねばならず、場合によっては減額されるという危惧も拭えないため、今後一度付けた予算については、報告書等の簡易な手続きで、毎年同額程度の予算が確保できる予算項目の新設を願いたい。

・ページ数を更に増加して内容を充実するためには現在の写真植字の方法では限界に来ている。大幅に予算を増加し、植字の方法に変更する必要がある。

・印刷、データベース化等、これからも改善の余地が大きく経費は必要。教育内容も時代とともに変わるので毎年内容をチェックする必要がある。

・全学共通科目等すべての科目のインターネットでの公開を行った時のサーバー及び管理者等の予算(ハードと打ち込みは出来ても維持管理ができにくい)。

・あらかじめ、予算の中に組込んでほしい。現在は学内経費で要求している。8年度から学部、大学院とも本格的に作成予定。

・外部に公表する場合。

・大学整備充実等促進経費の内、授業計画、授業評価作成費。

・学部で予算措置。

・本学部においては大学改革推進費(一般分)を充当した。

・今後内容の充実に伴い、作成経費が多くなるため、特別な印刷経費を組む必要がある。

・文学部のような予算額が少ない学部には140万はかなりの負担になる。

・経費がかさむので予算配分時に学部ごとに作成費をつけてほしい。

・去年度に要した経費を計上する。

・コンピュータ処理ができるだけの予算が必要。

・研究費に食い込まないようにしたい。

・印刷製本費等の名目で学部として処理している。

・印刷方法などを工夫して経費を安くする必要がある。

・教育方法及び修学指導のための特別経費として予算を確保し印刷代、送料等の負担を軽減したい。

・学生全員に配布するのに必要な予算措置。

・教育研究学内特別経費シラバス作成経費。

・近々抜本的カリキュラム改正を行う予定でありそのためのシラバス作成には多額の支出がかかる見込み。

・不要。

・平成 6、7年度とも「大学改革推進経費」で予算措置された。今後も同様に予算措置されれば問題はない。

・現行方式では特に必要なし。

・学部での当初予算で作成しているので特別予算措置が必要とは考えていない。

・現在は、学部予算で年度当初に計上しているが、学部予算によらない特別経費の配分が必要と思う。

・様式を一本化し全学で予算措置し作成した方が良いと思う。

・他の印刷物との関係もあり、一学部として負担が大きいのでシラバス作成も含めたカリキュラム関係作成費を大学全体として予算化する必要がある。

・現在は各学部で対応しているがシラバス様式の全学統一に伴い全学的予算措置の継続をお願いした。

・あらかじめ全学で。

・全学的予算措置。

・全学共通科目(教養教育等)については、全学のより一層の協力が必要。

・文部省予算の中に大学公報経費の様なものの定着又は学内的には全学的立場での予算事項の定着が必要。

・学部負担ではなく大学全体で予算化する。

・学部予算からの支出でなく大学負担であるべきである。

・大学全体として予算措置を取ってほしい。

・全学的に予算が取れるようになることが必要。

・特別な経費を大学全体で確保する必要がある。

・教室配分経費に影響がないように全学的に予算措置。

・学部内で共通的経費として支出しているが全学的な予算措置がほしい。

・現在学部共通費で措置しているが、全学的な措置が必要。

・シラバス作成にかかる経費の予算措置を別途設けてほしい。

・今後とも大学改革推進経費の継続が必要である。

・作成にあたっての経費の予算について、別途設けてほしい。

・従来作成してきた授業科目一覧表の作成経費以外に上記経費（注300万円）が必要となったことからこれに相当する経費が別枠で措置されたい。

・実績に応じて毎年作成のための予算措置が必要である。

・本学ではこれまで比較的安価な方法（ワープロによる原稿作成）でシラバスを作成してきたが、今後充実を計っていく上でそのための特別な予算措置が望まれる。

・年度ごとの印刷経費の外、各授業担当者がその都度追加印刷できる措置が必要。パソコンによる学内ＬＡＮを利用し学生が随時新しい情報を得ることができるようシステムを構築する経費。

・作成費用が数百万円規模になるためシラバス作成のための指定配賦措置が必要である。

・平成7年度版については学部の予算で作成したが、毎年作成を要するものなので、文部省で予算措置を講じてほしい。

・継続的な予算措置が必要と考える。

・一定の期間、経常経費として、シラバス作成費が必要である。

・毎年作成するので例えば「シラバス経費」という指定された予算措置をとってほしい。

・毎年作成するので特別な予算が必要。

・シラバス作成のために特別な経費必要。

・シラバス作成のためには特別な予算が必要。

・シラバス作成経費の計上。

・毎年シラバス作成費をつけてほしい。

・本格的なシラバスを印刷するにしろ「データベース」化するにせよ通常の積算校費ではない特別予算が必要と思われる。

・データベース化の予算措置。

・別途予算措置を希望する。

・「シラバス作成経費」を新たに計上してもらいたい。

・作成に多額の経費を要するので、定額で継続的な予算措置が必要である。

・文部省から大学への予算配分段階での予算措置を別途に手当てしていただきたい。

・現在は予算上、必要最小限のシラバスにとどめているので、学部の案内用パンフレット等とあわせて内容を充実させることが可能な予算措置を講じてもらう必要がある。

・全額シラバス作成用の予算措置をしてもらいたい。

・作成費用の全額を文部省が別枠でくれることが望ましい。今のままでは近い将来、作成が中止される可能性あり。

・データベース化のための情報処理機器整備及びデータ作成に伴う予算措置。

・ＬＡＮに結ばれたパソコンを全教官に配布しセキュリティを確保したソフトウエアを開発する予算が(3)以外に必要。

・可能であれば別途予算措置をお願いしたい。

・「履修要項」の印刷経費は教官当積算校費を充当しているため金額的制約がある。シラバス作成のための特別な予算措置が必要である。

・電算処理により作成するための予算措置。

・将来は各大学間を広域でネットワークし単位互換制度を充実させることが望ましくこの観点からはシラバス情報センターの存立などに対する予算措置が必要となる。

・平成８年度のシラバスは冊子化しないこととしたので、当該経費を計上する必要はなくなったが、学生配付用シラバス増し刷り代の実態を把握した上で、何らかの予算措置が必要と考えられる。

・特別の予算措置があるとシラバスの作成の自由度が増す。

・シラバス作成に対する特別予算措置。

・特別な予算措置を希望する。

・作成に要した経費を全額保証(特定の予算として)してくれる予算措置。

・シラバスをより充実したものにするには、シラバス作成経費等の予算措置。

・ シラバスは教育を効率的に進めるために大変有効であり冊子により印刷して学生に配布しているのでこのための予算を要求したい。シラバスを平成7年度からデータベース化しているが、毎年シラバスが更新されるためデータベースの更新に係る経費についても予算措置して欲しい。

・教育改革、教育指導経費等でシラバス作成に使える予算。

・作成に要する実績額の予算配分が必要である。

・学部予算からの支出ではなく、別の予算措置が望まれる。

・シラバス作成経費(大学全体)としての予算措置。

・今後内容の充実を図り、頁数が増せば作成経費が多額になることから文部省としてシラバス作成費の予算措置化を希望します。

・改訂版発行等のための経常的経費を毎年度必要とする。

・予算内で行うには、おのずと内容等に限度があるので、より充実するための予算が必要と思われる。

・特別な予算措置が必要。

・新たにシラバス作成経費が必要と思われる。

・特別経費として予算配分。

・シラバス作成経費及びシラバス掲載の参考図書等の購入経費を合わせた予算措置が必要だと感じます。

・本学では教務関係経費として毎年予算措置をしている。

・学部の予算委員会に諮り認められた上で作成してきたが、別枠で予算措置が講じられれば良いと思う。

・毎年作成するものであり大学全体では多額となるため特別な予算措置が必要である。

・今後一層充実させていくためには、経費を特に考慮していく必要があると思うので、予算措置をお願いしたい。

・作成経費の配分。

・シラバス推進経費等、大学として負担できるよう(学部負担でなく)予算措置を願いたい。

・現在学長裁量経費で措置されているが、シラバス作成スケジュールに合わせて早期に予算配分していただきたい。

・大版化に対応する予算増額。

・別途経費を設定して欲しい。

・シラバス作成には研究費を割いているので大学としてシラバス作成経費の予算措置が必要。

・中央経費より作成費が支出されているため、別途シラバス等作成のための予算措置が必要と考える。

・シラバスを別刷として配布するための予算。

・文部省において、事項指定の要求として各大学の刊行計画に基づく予算措置が必要である。

・シラバスを作成するためにはかなりの経費が必要となるのでシラバスの作成経費が別途示達されるとよい。

・現在は学内予算で措置しているが、定期的なものでもあり、文部省からの恒常的な予算措置が必要と考えています。

・既定経費で捻出しているため、特別の予算措置が望ましい。

・毎年度、必要とするものであることから基準経費として措置する必要がある。

・シラバスの毎年発行には、相当な費用を必要とするため、データベース化が必要と思われるので、そのための予算措置（ワークステーション等の機器の設置、データベース化そのものの費用等）

・今後も毎年シラバスの発行が計画されており、別枠での予算措置を要望する。

・現在のところ学部共通経費により予算計上しているがシラバス作成経費の予算措置を願いたい。

・シラバス情報のマルチメディア化に対応できる予算措置(人件費を含む)が望まれる。

・通常の予算に計上されていないため特別の予算措置される必要がある。

・教育方法改善経費のような別途予算があればよい。

・学生積算校費等の規定予算内で措置されているが、これらの作成費用として特別配分を行ってほしい。

・学部予算への負担が大きいので、別途の予算措置を必要とする。

・授業改善に関する経費として計上していただきたい。シラバスのデータベース化に向けた経費等も必要である。

・シラバスのデータベース化のための予算。

・シラバス作成には個人の段階から最終印刷の段階までそれなりの経費がかかっている。少なくともその余分の経費の予算は措置されるべき。

・大学教育改革に要する経費として恒常的な予算措置が必要。

・今後毎年シラバスを作成していくため経常的な予算措置をお願いします。

・シラバス作成経費は、毎年度必要のため当初予算で積算計上する必要がある。

・別途予算措置が必要である。

・作成に要した経費の予算措置。

・作成をすべて業者に委託できるか、少なくとも学生アルバイトが雇える程度の予算措置が必要。

・特別枠。

・学生当積算校費から支出されているため、他の教育予算を圧迫している。また、より充実したシラバスを学生に提供するためには、十分な予算措置が必要である。

・学部毎に一定の教務予算が必要である。

・毎年、シラバス作成のための定期的な予算枠を確保する必要がある。

・シラバスの充実のためにも恒常的な予算措置が必要であると思われる。

・当初予算での確立した予算措置が必要と考える。

・データベース化するならば、入力・出力の経費が必要である(人件費・コンピュータ等)

・学内措置として学生経費から支出しているが、別途シラバス作成経費として予算配分が望まれる。

・装丁などを工夫するためには、より予算措置が必要だと考えられる。

・教育効果を上げること、教育改革の一環とする等の観点からより充実したシラバスを作成するための経費が必要である。

・年度当初に予算化をしておく必要がある。

・今後は全学生への配布を考慮しており、なんらかの予算措置をお願いしたい。

・印刷費、シラバス作成の為の事務機器の整備の為の予算措置。

・シラバスの内容充実及び電子情報化への対応を考慮すると格別の予算措置が必要である

・作成に要する経費全額予算措置してほしい。

・シラバス作成用に特別枠の予算措置を講ずる必要がある。

・学生掛(あるいは担当する掛)へシラバス作成のための予算が必要である。

・現在校費で計上しているが出来ればシラバス作製費は特別に補助を講じて欲しい。

・作成経費を別途予算措置してもらいたい。

・外注できるための予算計上が望まれる。

・シラバスは学部学生及び大学院学生にとって履修計画を立てる上で必要不可欠なものであり、恒常的に予算措置を必要としていることから、経常的な予算配分を求める。

・事項指定経費として、別途配分されればよい。

・すばらしいシラバスを作成しようとすれば必要経費の全てを文部省の予算から支出すべきである。

・教官当積算校費等から拠出しているが、別事項立てして予算措置できればと考える。将来的には学内ＬＡＮ等を利用して供給できる体制を必要と考えるので、そのための恒常的な予算措置を考慮願いたい。

・学部改革に関する恒常的な予算措置が必要である。

・シラバス作成経費については、大学改革推進経費(一般分)が予算措置されているが、十分ではないため、不足額を学生当積算校費から捻出せざるをえない状況であり、学部経費を圧迫している。よってシラバス作成経費について特別のご配慮をお願いしたい。

・予算要求の項目として上げてもよいと思う。

・せめて私大並のシラバスを作るだけの予算措置は必要だろう。また、シラバスの ON-LINE情報化などを推進していく必要がある。そのためには今後は、コンピューターによる教務事務の処理を促進するなどの予算措置を講じる必要がある。

・これまでの校費とは別途に教育改善にふりむけられる予算が必要である。現状では研究費からまわしていることになっている。

・毎年必要な経費として、別途確保が必要。

・毎年作成するものなので、恒常的な予算措置が必要である。

・毎年作成ということになると金額が大きいので別途予算措置があれば良いと思う。

・現在作成しているシラバスを更に充実させるためにシラバス作成経費として十分な予算配分を願いたい。

・教養教育のシラバスを必要とする学生全員に配付できる予算。

・本学では、当積算校費から予算を捻出しているため、別途予算措置をお願いしたい。

・学部予算がきびしい折、学生の自立的な勉学意欲を高めるためにも、学生に対する公報活動に関する予算の一部として計上して頂きたい。

・上記のように多額の経費が毎年かかることになるので、恒常的な予算の補助が必要である。

・シラバス作成のための予算措置。

・シラバス作成費用。

・毎年作成し質のいいものにするには、予算枠をもうけていただきたい。

・一冊の頁数も多く、毎年、多数の部数を作成する必要があり、印刷代の予算措置が望まれる。

・予算措置が必要。

・他の印刷物も多いため、若干の予算措置必要。

・作成費用が高いため、特別予算の配分が必要である。

・シラバス作成のための印刷費、資料収集費等の予算措置が必要である。

・共通計費で印刷しているので継続を考えると専用の予算措置が必要。

問５(10)シラバス作成に要した経費等について
（ウ)その他，大学教育内容・方法の改善を進めるにはどのような予算措置が必要とお考えですか)

・大学間の情報収集、相互の勉強会のための経費。

・図書(単行本・便覧などを含む)費をはじめ教育にもっと経費が振りむけられるよう、教材などの購入経費が増加することを望む。

・各種改善が図られているが、本学のような小規模大学では総額一千万円から二千万円規模で一校当たりの応募件数の枠を広げた教育改善措置が必要である。

・学校教育環境の充実に要する経費。

・教育研究設備費、教材作成費、情報収集用調査費。

・教育機器、設備の充実。

シラバス作成の経費の捻出。教官の教育の負担に対して何らかの措置が必要。

・全学的予算措置の継続をお願いしたい。

・調査費。調査旅費。

・社会学類実習室への予算配分　・模擬法廷への予算配分
（設備、インストラクター費）　（裁判資料等）

・予算規模の小さい学部等(文系もしくは非実験系)に配慮した予算配分をのぞむ。文系もしくは非実験系であっても、理系/実験系と同規模の費用のかかる改善策は多くそのため、予算規模の小さい学部ほど、予算上の負担が大きい。

・　文科系の場合一件当たり数千万円という予算要求は仲々積み上げにくいので百万円単位の小口の要求を容れる科目費用があるとよい。

・本学部では開学当初より各学年ごとにカリキュラム書及び講義、実習用のテキストを作成している。シラバス作成にかかる費用は現在、学群校費から支出しているが年々その費用も増大してきているため、学群の運営に支障を来している状況である。教育内容、方法の改善にかかる経費、シラバス作成費等にかかる経費については実費相当分を別途予算立ていただきたい。

・教育研究費の拡大。

・教育方法の具体的実践を進めることのできる予算及び成果を公表するため予算措置。

・授業を受ける側の意見を反映させることに改善方法が考えられるが、そのためのアンケート調査等実施のための予算措置が必要である。

・地域との情報交換や教育における協力を行うための予算。衛星通信を利用した教育研究の改善方策のための予算外国大学との交流に関する予算。教育研究施設の老朽狭隘及び設備の近代化に関する改善経費のための予算。

・外部への公報活動(受験生など)のほかに今後は学生と教官とのコミュニケーションをはかる公報部門の設置。

・多様な授業形態の導入による。

・講義室、実験室等の施設整備費。授業実施に伴う教官旅費。非常勤講師手当。

・教室、教育機器の充実及び維持管理経費の増加。教育に関する教官の研修機会の増加(特に新任教官に対して)。ティーチングアシスタントの拡充。

・平成8年度「学生による授業評価」を行うことも念頭において予算措置を。

・大学の自主的判断のよって自由(特定の制約がない)に使える予算措置。

・本学では、講義要綱の作成経費については、学内予算で賄っているため、それなりの予算(前年度の作成経費が根拠)枠しかない。また学内教官層から、講義内容の充実や詳細の講義要綱の作成及び教育内容・方法の改善に係る意見を多数聞くが、それら作成経費については、なんらかの予算枠で文部省に要求することとなる。また、その年に予算が付いても、それらの作成を経常的に続けるためには、毎年要求を繰り返し行っていかねばならず、場合によっては減額されるという危惧も拭えないため、今後一度付けた予算については、報告書等の簡易な手続きで、毎年同額程度の予算が確保できる予算項目の新設を願いたい。

・平成7年度から補習教育経費が認められたが、この予算は職業高校出身者に限定されているため、今後普通高校での未履修科目(物理、化学、生物等)がある者にも拡大してほしい。留学生については特に日本語等の修得に時間を要するため、このための補習教育経費が必要である。

・他大学等との連絡、調整等のための職員旅費並びに諸謝金の予算措置も必要である。

・平成８年度より大学全体で作成することになるので、大学全体での予算措置が必要と思う。

・特別な予算措置が必要。

・他大学の教育内容等の調査研究経費が必要と思われる。教材作成のための予算付けが必要である。教育器材のハイテク化が必要である。

・金額に関係なく特別の予算措置が必要。

・大学の教育内容は研究成果の発表を基本としつつも、学生の学習要求、社会や時代の必要とする教育内容により構成されると考えます。また、大学教育内容・方法の改善は、社会人学生、専門的職業人学生の聴講比率を上昇(理想としては1/3ー1/2)させる事により一段と進展すると考えます。社会人及び専門的職業人が大学を活用できる環境を整備する予算措置が望まれる。この三者を把握し活用化させる予算措置が必要だと考えます。

・(10)と同様　(注)　シラバス推進経費等大学として負担できる様(学部負担でなく)予算措置をねがいたい。

・本学においては毎年「医学教育方法の改善に関するワークショップ」を開催している。この予算は文部省に要求しているものの定額配分が見込めず校費からの予算の確保に苦慮している

・様々の出版物の発行費・他大学の調査のための旅費などの手当ての充実。ＴＡ(ティーチング・アシスタント)の充実。

・アンケートの実施並びに集計等に必要な予算が必要と考える。

・大学院生のための研究費助成(50ー60万程度)が必要とされています。特に外国人留学生は修論、博論のために研究(調査、資料収集等)が必要ですが、そのための資金がなく苦慮している。

・学生当積算校費、教官当積算校費の単価に抱合する項目を具体的に明確化し、また単価をそれに併せて改善するとともに、各大学の特異な事項については、積極的な予算措置を行う。

・全学共通科目、専門科目についてできるだけ多くのモデル授業のビデオ化と希望大学等への配布。

・追跡調査のための費用を予算措置願いたい。

・シラバスをより充実したものにするためには他大学のシラバスを調査・研究する必要があるがそのための特別な旅費を大学全体で確保する必要がある。

・フィールドワークのための予算。

・調査費などの別途予算があればよい。

・大学の教育内容・方法の改善を図り、その成果を公表するために、印刷物は不可欠なものであり、そのために、これらの印刷費用の予算を特別に計上する必要があると考える。

・教育内容のより一層の充実を図るための経費、例えば少人数教育実現へのための慢性的な教室不足の解消、視聴覚機器を導入した効果的な学習方法のための予算措置、及びそれらに伴うスッタフ充実のための人的措置等が必要である。

・学部ごとの要求を大学としてまとめて予算要求する。

・教員教育研修に要する経費(校費、講師等旅費、諸謝金)。

・シラバス作成費用の事務(印刷)経費として予算措置されることをお願いします。

・教室配分経費に影響がないように全学的に予算措置。

・他大学のシラバスを参照できる様にしてほしい。

・特別に枠を設けて予算措置をしてほしい。

・そのような目的のための予算がつくのが望ましい。

・特別枠。

・新任教官の教育研修に関して、講師招聘・宿泊料・会場借上料などが必要である。

・リフレッシュ教育推進のための重点的な経費の配分。少人数教育や対話、討論型授業のための重点的な経費の配分。講義室等の施設、設備の改善に要する経費の配分。学外者の意見等を得るための経費(旅費、謝金)の増額。

・マルチメディア機器、設備の整備の為の予算措置。自習室の設置経費。補習授業実施経費

・教材(教科書、資料集・ビデオ、スライド、標本など)開発・購入経費。新採教官の教育能力開発経費。国内外の大学における優れた授業を参観するための経費。大学の教育内容、方法の開発、研究組織設立の経費。ＡＶ機器充実のための経費。大学の教育内容・方法の開発・研究に協力するスタッフ雇用の経費。優れた教育を行った教官を表彰する(メダル授与)制度導入の経費など。

・本学では教官の合宿研修(1泊2日、経費約１００万円)として「医学教育方法の改善に関するワークショップ」を実施しているがこの研修の充実を図るためには格別の予算措置が必要である。

・一般校費とは別枠で教材開発、教材作成等のための予算措置を講ずるべきだと考える。

・ＡＶ機器の活用をはかれる様な予算措置が必要である。

・近年の授業内容の増加、専門化により、各講座が学生に配布する資料の量は膨大なものである。このための予算(用紙・コピー代等)の計上が必要である。

・学生実習に対する安全の啓蒙 ― 手引冊子の作成。視聴覚機器の充実。電算機等情報機器の充実と施設の確保。

・学生個人の便利さを考えれば、現状の分厚いものより、電算化により、従来からの「授業要目」を索引として活用できることが、大学院の場合便利と思われる。

・自己点検・自己評価のための調査費等についても予算措置されることが望ましい。

・大学全体での改革に向けての予算措置をし、学部を超えて配分する必要がある。

・少人数教育を実施するための施設面の拡充。

・ティーチング・アシスタント制度の拡充と恒常化。

・学生の教育のための費用が学外実習以外には認められていないので教材作成実習に係わる費用を教室の費用乃至学生の自弁でまかなわざるを得ない。

・調査経費。改善のための経費。

・教育内容・方法等を改善するためには、各講座間における教育内容のチェック及び学生による授業評価を種々調査する必要がある。 その調査結果をまとめるためには、事務官だけでは相当の日数を必要とするため、外部業者に委託し集計してもらうことになる。当該外注費に対する予算配分は是非必要である。

・学内特別研究経費を多様な目的で配分してほしい。

・きめ細かい措置を希望する。

・実験、研究用機器の充実。研究奨励金の拡充。ティーチング・アシスタントの拡充。

・予算措置が必要。

・沖縄は遠隔地にあり、情報不足を補うための他学校見学・教育研修会の旅費が必要である。

・学生による講義の評価が必要と思われる。

・教育内容・方法の開発研究会等を設置し、情報交換から始めてみるのも一案。

・関連予算は増額傾向にあり特に問題はない。

・大学改革推進経費(カリキュラム改革調査研究経費)で十分と考える。

・視聴覚設備を各講義室及び実験にセットできるような予算が必要である。

・シラバスの全国的な公開とそれに向けて利用のための全国的ネットワークの構築。新時代に即した機能的な講義室。学生の自習室・図書室の充実。

・教材提示装置(ＡＶ機器)が北海道大学では余りにも少ない。もっと多くの教室(せめて10教室程度)に設置して欲しい。

・今後さらにシラバス等の改善、工夫が必要でありこれらの経費の増額またはシラバスのデータベース化のための予算措置、さらに本学は道内5地域に分散する5分校体制をとっている大学でありマルティメディアによる双方向遠隔授業等に対応するスタッフの拡充等(院生のティーチングアシスタント経費等)に要する経費の増額が必要となる。

・補習教育のための人的、財政的措置。教育のマルティメディア化に対応した施設、設備の改善措置。

・大学改革推進経費等の予算措置について、更なる推進及び広範囲への配分等が必要である。

・講義・実験・実習を行う際に、最新の教育媒体(パソコン・オーディオビジュアル装置等)の整備を可能とするための措置を要する。

・近年大学改革推進経費やカリキュラム改革調査研究経費等大学の教育内容・方法の改善に資するための予算配分が多くなっていますが、このような教育改革・改善経費の更なる増額を望みます。

・カリキュラムの見直しにより平成7年度から6年一貫教育(新カリキュラム)が実施されたが、新科目の開設、教育内容、方法の改善に伴い、視聴覚機器の購入、印刷物等経費を要するので、予算措置を講じてほしい。

・学生卒業生等へのアンケート調査費用等の予算措置。シラバスを含め、教務情報の電算化、ネットワーク化のための予算措置。端末等、ネットワーク利用環境の整備。

・大学改革推進等経費の増額措置。

・教育方法等改善経費の充実が必要と思われる。

・教官の定員増、ティーチング・アシスタント枠の拡大、教育機器の整備。

・抜本的改善を図るには教育にたづさわる人間にゆとりが必要であり教官の増員が不可欠である。

・教官の雑用を軽減するような教育支援体制の整備。

・教育方法等の改善にあたっては、経費の面だけでなく、人的措置についても配慮願いたい。

・教官が授業・研究の専念できるよう、教務職員、助手など充実させる必要がある。

・教育内容・方法を学内外に提供し、その批判を受けて改善を図るためには、学部内に情報発進基地となる施設及び要員の確保が必要となる。そのために「情報発進サイエンス館」を新営及び管理保守要員の予算措置が必要である。

・カリキュラム改革調査研究経費等の増額を希望する。

・シラバス作成に連動して授業評価の検討も考えられているが、これにも相当の経費が必要と思われるので「教育内容改善のための経費」のようなものを予算措置する必要があると思われる。

・文科系といえども学部教育において今後益々情報教育並びに国際人養成等の推進が重要視される中で現有施設(演習室、実習室等)・設備(情報機器等)の充実・改善のための予算措置が必要と考える。

・老朽化した実験設備の大幅な更新を行うための経費。

・学生当たり校費の単価の増額。学生実験、実習用機器等設備の更新および充実のための経費(急速な学問の進歩に対応した実験実習を行うため、大型機器の設置もさることながら、一般的な器具、機器の要求内容も変化しこれらを充実する経費および既存の設備の更新経費)に充当する予算が少な過ぎる。マルチメディア関連設備設置予算設備の購入と管理・維持のための予算。

・教育情報システムの構築等、大学の総合的情報化のため予算措置。

・教室等にＯＡ機器を設置する。

・教育機器の充実（スライドプロジェクター、ＶＴＲ　)自習のためのＣＡＩ装置。小グループ討議のためのカンファレンスルームの拡充。

・上記を参照　(注)　将来は各大学間を広域でネットワークし単位互換制度を充実させることが望ましくこの観点からはシラバス情報センターの存立などに対する予算措置が必要となる。

・視聴覚設備充実のための特別な予算措置。

・将来的には、シラバスのデータベース化を検討している。これが実現した場合は、データの入力、端末機の設置に要する費用に関して予算措置が必要となる。

・教育内容・方法の改善を検討するための予算措置が必要。また教育情報の電子化(ネットワーク化)を進めるための予算措置が必要。

・実験・実習のための設備等を充実できる予算措置。

・コンピュータ機器を使用する授業など施設、設備の都合でクラス分けをしいられていることから、更なる施設等の充実のための措置が望まれる。

・教育内容・方法の改善によりマルチメディア機器等を新規に導入する必要があり、その購入、維持に要する経費を経常予算内で執行することが困難であることから、これら新たに生じてきた経費に対する予算措置が急務である。

・全教官、職員に情報通信機器としてネットワーク対応のパソコンを配置する予算措置を是非とって欲しい。

・大学全体の改善経費としての予算措置。

・大学の教育内容は常に見直しが必要であり、ある年度で終わりということはない。したがって恒久的な教育改善経費が是非とも必要。

・シラバスのデータベース化を予定しているので、関連機器の予算が必要となる。

・教育の情報化の進展に伴う情報関連機器の整備のための予算を望む。

・設備、特に視聴覚設備、実習室および実験室の設備の改善が必要であると考える。また学生用図書購入費の増額が必要である。

・情報化社会に向けての授業内容の充実、改革をおし進めるためにはコンピューターやネットワークを活用していく必要が有る。 コンピューターの購入(学生1人に1台使用できるよう1教室100名単位)や教室のラン配線(1教室100名使用)の予算措置が必要。

・教育設備(パソコン・ビデオ等)教育施設(視聴覚教室等)。

・シラバスのデータ・ベース化に対応する予算増額。

・今後、シラバスのデータベース化に伴い、必要な端末購入の予算措置が必要と思われる。

・視聴覚設備の充実のための予算措置。

・今後は、印刷物によるシラバスはなるべく廃して、電子メール(インターネット等)で柔軟に記述、読みとりができるシステムの構築に投資・援助するべきである。

・実験・実習科目について、現在の技術革新に併せて教育内容の改善を進めるためには実験・実習用機器を更新する必要がある。これらについては大学改革推進経費、学部ハイテク設備費、理工系学部設備費等の経費が措置されているが、これらの経費の増額が必要である。

・カリキュラム改革推進調査研究経費の増額が望ましい。

・視聴覚的教育方法をもっととり入れることができる部屋、設備を充実させる予算措置が必要。適宜学外での教育を行うための予算措置も必要。

・学内ラン・インターネット利用のための経費(検索用端末機等の機器整備等)。

・最新の学術研究に対応した実験室の充実、機器の更新等のために、大学改革推進経費等の更なる増額を希望する。

・教育改善経費の増額を希望。

・担当スタッフの必要員数確保に必要な予算。マルチメディア化移行に必要となる設備(ソフトを含む)充実に必要な予算。マルチメディア化移行に伴う担当スタッフの技能向上に必要な予算(研修費用等)。

・高等教育の方法改善のための予算措置が十分なされる必要がある。

・シラバスのデータベース化等。

・情報処理機器・視聴覚機器を充実させるための購入経費。

・電子メール等学内のパソコンを通じて学生及び教官が印刷物を見ることなく最新のデータを利用できればと思う。

・各講義室への視聴覚設備、電子計算機（ＰＣ)等の設備費等が必要と考える。

・学生の自習室、ゼミ室の拡充のための予算。マルチメディアを教育に導入するための予算。

・定期的にデータベース化と修正並びに教務改善検討委員会での討論が必要でこのような機関への予算措置が必要と考える。

・大学改革推進等経費等を増額することにより、積極的に教育内容・方法の改善を進めている大学に対して予算措置を図る必要がある。

・ビデオやパソコンの液晶プロジェクターが自由に使える教室、設備の整備を望む。

・教室が足りない。特に大学院の講義もあり問題が多い。講義資料を準備するためのティーチングアシスタント経費などを増やしてほしい。

・教授内容の改善で教室へのビデオ装置の設置を要望する。

・近い将来には、インターネットを通して作成したいと考えているが、機器・ソフト投入において不十分である。

・大学改革推進等経費(カリキュラム改革調査研究費)の増額が必要と考える。

・教育カリキュラムの体系化・指導内容の充実のため、シラバスの充実及びデータベース化に要する経費。

・視聴覚機器。ＬＬ装置の充実。教授法研究、開発、指導費。

・少人数教育を進めるため、10―20人の小セミナーが少なくても20室(1―2学年)必要である。

・視聴覚教育、情報教育関連のための資料の充実。視聴覚教育、情報教育等をより円滑に、また学生に対する常時のサービスを行うためにも助手の配置又は謝金の使用(シラバス作成のためのものも含む)。

・学部情報処理教育のための設備費(計算機、設備室等)及び学部実験教育のための設備費(実験装置、実験室等)の充実が必要である。

・改善等に寄与できる研究プロジェクト等への予算措置。教育環境の整備(講義室の近代化、実験室等の整備等)。

・シラバスとは直接関係ないが、講義室、実験実習室がとにかく狭く、教育設備も劣悪であるので、このような教育に関わる改善費が是非とも必要と考える。

・シラバスとは直接関係ないが、講義室、実験実習室がとにかく狭く、教育設備も劣悪であるので、理系離れを阻止し、技術立国を維持する上からもこのような教育に関わる改善費が是非とも必要と考える

・大学情報のより一層の公開、学生サービスの向上を図るためにも、教務事務の省力化、更なる電算化が急務であり、特に現在、履修登録・成績報告を完全電算化するためのハード、ソフトを整備する予算措置を求めている。また教育環境の整備、教育機器の充実が求められている。

・大学改革推進等経費の増額を期待したい。

・シラバスは毎年変更する可能性があり、本来印刷物より、端末で学生が自由に見られる必要があると思う。よって電算に伴う経費が今後必要と思われる。

・教育内容・方法の改善経費をもっと増加すべきである。

・「教育方法等改善経費」が充実されることを期待する。

・大学の教育内容・方法の改善を進めるためには、印刷物等の作成に多大な経費がかかるため、これらの予算措置について、特段のご配慮をお願いしたい。

・改善内容に応じて、別枠での大幅な予算措置が必要。

・教育方法等改善経費がある程度毎年使える様な予算措置が必要である。

・教育方法改善経費の充実が必要と思う。

・ＡＶ機器・パソコンの充実と施設の整備。

・視聴覚施設・設備の充実に必要な予算。

・演習などの少人数教育やマルチメディア教育(情報処理教育を含む)を充実させる上で適正規模の演習室の確保、情報処理教室、マルチメディア教室、機器といったハード面の整備必要。現状では教室は椅子と黒板のある部屋にすぎない。

・ビデオ・オーディオ機器に用いる教材費等ハードの充実はもちろんだが、ソフト面の充実も行っていただきたい。

・シラバスや教育情報の電算化に伴う、ハード、ソフトの予算措置。特に情報の入力の外注費が毎年保証されるべきである。

・少人数教育の実施に伴い、教官及び教室を確保するための予算。効果的な外国語教育を行うための施設、設備の充実をはかる予算。新任教官に対する研修等の実施のための予算。

・シラバスのデータベース化のための予算措置。視聴覚機器を全ての講義室に設置。

・講義室の整備(特に視聴覚機器の整備など)に対する予算措置。教育学部としては、新しい教育の流れ(例えば、情報教育、国際化に関する教育、環境教育ほか)に対応した教室や設備、さらに人的資源への予算措置。

・講義室、実習室等の拡充が必要。

・受講者数の増加に対応できる大講義室の整備。

・教材及び視聴覚機器導入費の充実。

・特に実験室と実験設備の充実が緊急に必要である。教室の冷暖房、音響機器、ビデオ装置等が必要である。

・少人数教育を進めるに当たって、ＯＨＰ及びビデオ等の視聴覚機器の量的拡充が必要である。

・視聴覚教室の充実、教育内容及び方法の改善を進める教官への予算支援。

・教室およびマルチメディアに対応できる機器の整備された教室の整備費が必要。

問６
（その他，シラバスに関するご意見等がございましたらご記入願います。）

・統一したスタイルを目指す。

・受講可能人数の明記なども必要。

・″時の趨勢だから作る″と言った観点ではなく、学生の学習意欲の向上を図り、学習内容を着実に消化させるために、充実した内容の授業計画を提示し、教官の熱意を示すことが肝要と思う。

・上記(10)ウ）と重複するが、シラバスをデータベース化して、他大学の情報を教官、学生が容易にインターネットを介し、知る、見ることのできるシステムの構築。

・将来はＣＤ－ＲＯＭあるいは学内ＬＡＮを活用し検索を容易にすると同時に、他授業科目との関連付けをより理解しやすくしたい。

・各授業内容及びシラバスへの掲載内容・方法等について、点検・評価を加えながらより有効なシラバスの作成をめざして検討中である。

・教官全員のものを合冊したものを作る必要はない。規格を揃えたものを作成願い、一部合冊し保存用や図書館へ備えるためのものとかに供すれば良い。学生に対しては、各先生から講義の初日に配布するようにすれば良い。印刷費の節約になる。シラバスは発行される当年1年限りのものという考え方で作らねばならないと思うが、教官の中には、シラバスの配付を受けた学生に対して、その学生が何年か先に受ける授業(単位取得の年次、学期は指定される)の内容をあらかじめ示すものだという考え方があり、シラバス作成を無用に困難なものにしているように思う。大学間のシラバス比較研究が必要であろう。その時、初めて他の大学との比較において自分の大学の教育の弱点や特色も見えてくる。

・講義室、ゼミ室の整備(数、設備)。

・今後は印刷物として発行するのではなく、コンピュータによるデータベース化をするのが最も効率的と考えられるが、その際、各大学間での検索を可能にし、かつ使いやすいフォーマットの開発が望まれる。

・財務の援助がないと継続が困難である。

・来年度以降もシラバスを作成していくが使用頻度を高めるためにも、学生便覧との整合性等を検討して、利用しやすいよう改善していきたい。

シラバスは多大な経費と労力を必要とするので、すでに実施した研究科、学部の事例を参考に取り組みたい。

・シラバスの有効な活用方法について、学生、教官、事務官とも更に検討が必要なように思われる。

・学内ランを利用しデータベース化することが必要。

・学生が単位取得することを先行させて、内容の関連などを無視して科目を選択する傾向がみられる。このことを改善するためには、各科目の関連をよりいっそう明確にしたカリキュラム体系や履修方法を学生に提示することも必要に思われる。そのためには、授業内容がより詳しく分かるようなシラバスを作成していくことも今後重要な課題となってくると思われる。

・科目選択のためであれば従来の授業概要で用は足りるし、実際に受講する学生への学習指針としては不十分でありやや性格があいまい。基礎科目のように内容がほぼ定型的なものについてはシラバスは適しているが特講のように最新の研究テーマを取り上げるものには不向き。

・英語版も出して国際化する。

・教官によるシラバス内容のばらつきを減らすためには、社会的な合意として「詳しいシラバスのある大学ほど良い大学である」という雰囲気ができることが重要と思われる。

・シラバス内容、参考文献の指示等、教員の思想、信条に関わることである。前後の脈略なしにそこだけをとりあげ、とやかく言われることがあってはならない。シラバスの公表(という考えがあるようだが)を含め、そのとりあつかいには慎重を期す必要があろう。

・きちんとしたシラバスを事前に作り、それにそった授業をするためにしっかり準備をしシラバス通りに授業をするのが当然という意識を教官が持つようになることが肝要。
そのためにも、今は、強制しても原稿を作らせ刊行し続けなければならない。

・国際総合(関係)学類ではシラバスの英語訳版も出版しているが短期交換留学の促進のためには非常に有用である。学類の予算内でパソコンの学類ホームページにシラバスを英和両訳で入力したいと考えているが、これに必要な予算が大きい、何らかの予算措置は考えられないであろうか。

・意外と学生はシラバスを見ていない。学生はシラバスに関心を示さない。シラバスの内容が魅力的であるかどうかにかかわらずこのような傾向がある。

・本学群では、開学当初より各学年ごとにカリキュラム書及び講義、実習用のテキストを作成している。シラバス作成にかかる費用は現在、学群校費から支出しているが年々その費用も増大してきているため、学群の運営に支障を来している状況である。教育内容・方法の改善にかかる経費、シラバス作成等にかかる費用については、実費相当分を別途予算立ていただきたい。

・より具体的に示す、できれば授業内容に関するキーワードを毎時間10程度示すようにすれば、科目の重複をさけることができ、学生の学習にも有効であると考える。

・教育学部での開講授業科目は、700を超える科目数(1つの科目を全てのジャンルに掲載するとなると、1400を超える科目数となる)が用意されているが、学生本人が調べたいシラバスをどのジャンルからもリサーチ(検索)できるシステムを早期に確立することが望まれる。

・本学は、シラバスに併せて履修手引、授業時間割、教員名簿及び大学案内をデータベース化して、学生に教育情報を総合的に提供している。このデータベースは一部を除いてインターネットに公開している。学生による授業評価(前学期、後学期の年2回実施)により、教育面においてのシラバスの有用性について調査、分析している。

・シラバスの中心テーマが講義計画等にあるとすると、学問の系統、講義とゼミ、外書講読等の科目の違いによって、一律に処理することに難しさがある。学生等の反応を見ながら順次改訂していく中で、フォーマットもある程度揃ってくるであろう。

・平成8年度は、従来の「講義要目」の内容を充実させ「履修条件」「授業目標」「評価方法」「参考図書・教科書」「授業計画(授業内容)」「教官からのメッセージ・その他」を盛り込んだ「授業計画」を作成し学生、教官等に配布することとしている。

・馬を水飲み場に連れていくことはできても水を飲むのは馬自身である。という問題欧米の学生と日本の学生では自立心に差がある。欧米で成功しているシラバスを日本にそのまま導入しても成功するはずがない。 工学部ではその点について電子シラバス作成という工夫をしてみた。

・4年間で受講するカリキュラムの全体像がわかる様に作成するのがよいと思う。現状程度でよいと思います。シラバスにもある程度自由度がありませんと授業はいきいきしません。

・授業の成果をまとめ記録するための予算措置ができないものでしょうか。例えば、授業の過程が最終段階で学生から提出されるレポート等を一冊の成果報告書(仮称)などにまとめていくための予算措置です。このような報告書が毎年まとめられていけば前年度の成果を受けて、当該年度の授業を展開することができるなど学生たちにとっても大きな刺激になろうと考えられます。

・印刷物としての配布ばかりでなく、各種メディアを有効に利用した授業内容その他情報が得られるシステムの充実が望ましいと考える。例えばシラバスオンラインシステム、ホームページ作成による ｅ－ｍａｉｌの対応など。

・シラバスを印刷すると大変分厚い冊子となり、それが用済みとなると膨大な紙屑となる。シラバスをコンピュータによるビジュアル化を徹底すれば省力化が計れると考えられる。

・現在、本学ではシラバスのデータベース化を進めているが、端末機の不足その設置場所の確保、利用の仕方の指導体制等の問題について今後検討する必要がある。

・将来は各大学間を広域でネットワークし単位互換制度を充実させることが望ましくこの観点からはシラバス情報センターの存立などに対する予算措置が必要となる。

・「開講科目」(授業概要を記載した冊子)と「授業計画(シラバス)」を並行して作成することの是非、シラバスのデータベース化が今後の検討課題とされている。

・本学部学生には、インターネットを利用して開設する授業科目の情報を提供するとともに、他学部の学生にも授業科目情報を提供することを検討している。このことが可能となると、事務の省力化、学生へのサービス向上などを図ることができ、またシラバス作成部数を削減することができる。

・経済学部のように時代の変化に応じた授業を多く求められる学部では、授業内容が毎年変化している。これに対応していくためにはシラバスをバインダ形式にすることが望まれるが予算が少ないため実現できない。インターネットを使ってシラバスを公開し、大学の教育内容を公開してはどうか?。図や写真の入ったマルチメディア化したシラバスも学習興味を高めるために効果的ではないだろうか？

・シラバスをデータベース化し、学生自らがコンピューターに直接ふれる機会を設けることにより、「シラバス」本来の意義とともに情報処理教育の一環として活用する方策なども考える必要がある。

・学生が知りたい情報と教官が学生に伝えたい情報に差があるように思います。この差を無くするような努力が必要と思います。

・科目数が増えた場合(例えば教養的科目)には頁数が多くなり(例えば５００頁以上)携帯には適さない。

・シラバスのインターネット化が必用、そうすれば 1、学生は重いシラバス(本)を持ち歩く必要がない。(現在も持ち歩いていないが)。2、他大学のシラバスを容易に閲覧できる。

これにより大学間交流を推進することができる。3、社会人も容易にシラバスを閲覧でき、大学を社会に開くことができる。

・シラバスの必要性については、信州大学自己点検・評価運営委員会が1994年3月に発行した「信州大学の現状と課題」の本学の重点的諸課題の中で、「全学的シラバスを作成し、それに基づき学習成果の達成度が明確な教育効果の見えるカリキュラムとすること」とされている。

・将来的には、印刷物という文字情報ではなく、シラバスのデータベース化を図ることにより、画像情報として必用なデータがいつでも、どこでも検索できるようなシステムの構築が必用となる。印刷経費がかさむため共通教育を履修する全学生に配布できない。また、教官も授業担当教官へのみの配布となっている。

・シラバスに多様な内容を盛りこむことで冊子が部厚くなることがまぬがれない。将来的にはネットワーク化して各授業科目の検索ができるようにしたい。

・学生が空き時間に他教科の興味の持てそうな授業を探して受講しようとするような場合には便利であると思われ、実際、学生の自由科目選択の幅を広げるという効果を持ったと思われる。しかし、開講全科目のシラバスを冊子体にして配布することは一面では不経済である。何故なら、教育学部の場合、各教科の専門科目を他教科の学生が受講することはほとんどない、特に文科系の学生が理科系の専門科目を受講するとか、その逆、実技系の学生以外の学生が実技系の専門科目を受講するなどということはないからである。したがって、将来は数冊の冊子体を用意し、データはコンピュータのデータベースにし、学生が必用な箇所だけを印刷できるようにするほうが資源の節約になると考えられる。

・細かく書くと、シラバスと実施とのくい違いが生じやすいので、授業のねらいと授業内容のアウト・ラインにとどめた方がよい。

・学生の現状に見合った方法が望ましい。コンピューターの利用が得策かもしれない。

・回答欄が空欄となっているのは、平成7年度はカリキュラム改正の過渡期にあたるため、「教科案内」(シラバス)は一部に科目のみの編集となっていますので、具体的な回答は差し控えさせていただきました。

・大学院の授業は学部教育と異なり、基礎的枠組みだけを講義するものではなく、最先端のトピックスなどを織り込みながら行うことが多く、講義の方法自体も実験的なことも多い。従って、年度や学生の質に応じて変動するので、詳細に過ぎるシラバスは、かえって不適当である。但し、学際的領域の研究においては、授業体系の整合性、統一性、方向性等を明確にする意味でも、シラバスは特に意義がある。

・現在、作成しているのはパンフレット等のみなので確定的な意見は控えるが、シラバスによって授業内容を固定化してしまうと本研究科の特長である課題解決型の授業が行えなくなる。 また、学生の反応を見ての授業もやりにくくなるという反対意見が根強い。今後、ルーチンの授業に限ってシラバスを作成したいと考えている。

・学生の回答する授業に関するアンケートの一環として「シラバス」に対する学生の意見を聞き、その結果を今後の作成上の参考とすることにしている。

現在、データベース化の準備を進めている。

・本格的なシラバスを作成してから、間がないので定着化と改善を計る必要があると考えています。

・作成については、あまり複雑にならずにシンプルな方が利用しやすい。

・科目によっては作った方がよいものもあるが、全ての科目にシラバスを作る必要はないし作れない場合もある。

・恒久的な予算措置が必用。

・将来的には一般の人(特に受験生)も見れるような形態、例えばインターネットでアクセス出来るような形態が出来れば良いと思います。

・シラバス作成には大変な作業量を伴うが学生にとっては大変役に立つので今後も続けて発行することが望ましい。

・他大学のシラバスも含めて現在、形式的、画一的な項目、内容のものが目立つ。教官の個性を生かす工夫も必用だと思う。

・学生の持ち運びの容易なルーズリーフ形式にする。原稿執筆と講義の開始が空かないように、大部のシラバスは避けたい。費用の上からも、毎年印刷費を捻出できるのであろうか。

・平成8年度より充実したシラバス作成にとりかかっている。

・シラバス作成に係わらず、学生募集の時期から入学時期までに、多くの印刷物を発行しなければならない。これらは、大学の自己点検評価の成果の一貫として作成されるものであり、学外への広報的役割を果たしている。 したがって、印刷費(企画料含む。)を含めた大学の広報予算を確立されることを望む。

・各学部にとって、実質的に役立つものを作るようにしたい。学部、学科の教育方法等その特性に応じたシラバスを作成する。

・平成8年度に向けては、1科目1頁(A4版)とり、さらに多くの授業科目内容の情報を盛りこむ予定である。

・各回毎の授業内容の詳細な指示、予習、復習のための文献の提示等が盛り込まれているような、シラバスの充実に向けた諸々の取り組みが求められると思われる。また学生の希望する進路に添った履修のための道案内としての役割をもたせる工夫も必用であろう。更に科目間の有機的連携を持たせるようなシラバスとする必要があろう。

・データベース化してマスメディアを通しても見えるようにする(どれだけの人が利用するかを考えてみる必要はあるが)。これにより学生は不必要な部厚い本を持ち歩く必要はなく、自分にとって必用な頁だけプリントアウトすればよいという利点はある。本学部の場合は、シラバスの作成は必用なものとして教官全員が積極的に参画してくれたことは、十分評価されてよいことである。平成８年度は全学のフォーマットに従って全科目一頁になり内容にも一層充実するはずである。

・学部にインターネットを利用したシラバスの活用ができるような方法を検討してほしい。

・学科によっては、インターネットにシラバスを載せているが今後学部全体としてもインターネットに載せることも考えなければならないと考えている。しかしながら、常に最新の情報を提供するためには、情報の管理・更新のための要員の絶対数が不足している現状にある。

・初めての試みであり効果や活用方法については今後十分に検討したい。

・シラバスはややもすると教官が教官用の文章を書きがちだがあくまでも学生用のものであることを書き手(教官)に強く認識させることが肝要であると考えます。

・シラバスのデータベースが完成すれば、学科ごとに分冊化し、学生には学科のものだけを配布し、経費の節約もはかるべきである。

・シラバスを作成することは当然すべきことであり、ない方がおかしい。

・来年度の授業内容を学生にきちんと知らせるという教官の意識が全教官に徹底されていない。

・シラバス作成者の負担軽減措置が必要。

・シラバスの内容を向上させるための一助として、大学間の情報交換が望まれる。

・シラバスの学生への配付は、学生の選択・予習の関係から3月上旬が良いと思われる。シラバスは一冊にするのではなくて、授業の概要を一冊にし、詳細なシラバスは授業時に担当教官が配付する。

・元来シラバスは一科目又は単位の全期間を通じて日単位で特定して決めるもの。即ち月日にテーマを特定する。出席せずとも内容のわかる詳細なものが必用か否かは担当教官の考えによればよい。要するに学生の学習・知識修得に役立つものであること。

・形式にこだわりすぎたシラバスは却って授業計画の柔軟性をそこなうというデメリットもあるため、各学期あるいは年度単位で作成しているのを、例えば3週単位で作成して学生に配付する等、軌道修正ができやすい方法が望ましい。

・データベース化しいつでもどこでも検索可能にすれば良い。

・各大学・学部で、どのような授業が行われているかを知りたい受験生や高等学校の先生が、シラバスを入手できる体制を整えるべき。全国の大学・学部(大学院も含む)のシラバスを相互に閲覧できるシステムを構築(コンピューターの利用)すべき。教官には教育内容・方法の改善に役立ち、学生には単位互換や他大学の大学院受験等で参考になる。上記の実施に関する財政的援助が望まれる。

・印刷形式でなくデータベースが望まれる。

・各大学、さらには他国の大学のシラバスがインターネットで自由に開示できると良い。

・現在大学全体でシラバスを編集すべく委員会で作業しているが、出来ればインターネットを活用し他大学のシラバスとも交換したい。

・教官委員によって、電算化を構築中である。

・今後電算化による検索等も可能と成し、大学情報公開を進める予定である。

・本学では、8年度のシラバスを作成するにあたり、教官への原稿依頼を電子メールを使い取りまとめ等を行った。これは本学の教務情報システムの一環を利用したものである。このシステムは、まだ試行錯誤な部分もあるが、学生はこのシステムの端末を使うことにより随時シラバスを見ることができる。このためシラバスを持ち歩かなくてよい利便性ができた。

・各大学でシラバス研究委員会をつくり毎年教官の反応、学生の反応など有効性と改善点考えること。

・事前に膨大なシラバスを作成するよりも、受講生等の人数がほぼ明らかになった時点で、より詳細な授業計画や参考文献等を指示するやり方が効果的であろう。本学部においてはこのような方法によるシラバス補完が相当数の教官によって行われつつある。

・特にありませんが、今後少しづつその意義についての理解が深まるものと期待されます。教育評価の材料として使えるようになればよいと考えます。

・シラバス作成のための労力や費用にわりには、学生や教官における活用が充分でない感があり、この点が今後の課題であろう。

・(8) (9)については第一回目のシラバス作成であり、その効果についての分析・評価を行うまでには至っていない。

・ネットワークによる講義概要等の考慮。

・シラバスの電子化を推進し、分厚い活字の本をやめる方向を模索すべきである。

・内容の充実等冊子の形態を推し進めていけば、分量が多くなり、結果的には学生が読まなくなる恐れがある。

・現在、大学改革により四年一貫教育の立場からカリキュラム全体が見直されている。将来は、研究者・専門家コース、教職・公務員コース、就職コースの選択が可能なように指示する方向で見直されることになろう。その為には、関連する他学科・他学部の授業内容も学生・教職員が各学部で把握公開できるようにすることが重要である。

・概して、シラバス作成は良い試みであると考えられる。今後、作成の目的を達するためには、シラバスそのものの内容の一層の向上が必用である。私どもでは、シラバス作成をはじめて、まだ年月がたっていないので、この効能についての評価は、もう少し待たなければならないと思います。

・現在 6学科分をまとめて一冊としているが、学科ごとの分冊でもよいのではないかという意見がある。

・全学的な学期毎の時間表の作成や部厚くなり過ぎたシラバスの必用に応じた分冊化等、集中化と分散化を心がけなるべく利用しやすいシラバスを作成する努力が必要。

・大学院の授業に関するシラバス作成も近々の課題になると思われる。

・インターネット(WWW)内に全大学のものを統一的にアクセスできるようにしてはどうか。各大学での授業計画の参考、受講の相互交流等に役立つと思う。

・シラバスの利用に関して、まだまだ不慣れである。実際の講義の進行に合わせた修正、補足ができれば、一つの改良となろう。これは、電子メール等の電子化が前提となる。